

「新しい国語」 指導計画作成資料 解説・指導事例編

目次

- [解説] これからの国語教育と複式指導 1

- [指導事例]
 - 1・2年指導事例① 国語教室開き 11
[同領域同教材] 1年「さあはじめよう」「よろしくね」 2年「すきなこと、なあに」
 - 1・2年指導事例② ちえをしようかいしあおう 16
[同領域異教材] 1年「子どもをまもるどうぶつたち」 2年「あなのやくわり」
 - 3・4年指導事例① 国語教室開き 22
[同領域同教材] 3年「何をしているのかな」「くらべてみよう」
4年「もしも、どうしたい」「グループにまとめて整理しよう」
 - 3・4年指導事例② 説明文を読み、感想や考えを持とう 27
[同領域異教材] 3年「人をつつむ形ー世界の家めぐり」 4年「数え方を生みだそう」
 - 5・6年指導事例① 国語教室開き 36
[同領域同教材] 5年「この言葉、あなたならどう考える」「事実と考えを区別しよう」
6年「気持ちよく対話を続けよう」「原因と結果に着目しよう」
 - 5・6年指導事例② 説明文を読み、要旨や筆者の主張をまとめよう 41
[同領域異教材] 5年「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」
6年「イースター島にはなぜ森林がないのか」
 - 2・3年指導事例 聞く名人になろう 48
[同単元同教材・一部活動を共有する]
2年「外国の小学校について聞こう」
3年「メモを取りながら話を聞こう」
 - 4・5年指導事例 言葉の知識を身に付けよう 54
[同領域異教材] 4年「文の組み立てと修飾語」 ⑤年「敬語の使い方」

これからの国語教育と複式指導

1. これからの国語教育

2020年度から全面的にスタートする教育課程、学習指導要領は、加速度的に進展する社会の変化に対応した新しい時代の教育の在り方を指し示している。指導計画は、当然その路線をしっかりと踏まえたものでなくてはならない。形式的なものではなく、教育課程改訂の意図を十分生かした計画を立てて実施するよう努めなければならない。

今教育課程は、教育基本法が目指す教育の目的に基づき、変化の激しい社会を生きるために必要な力である「生きる力」を育むことを重視している。このため、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、以下の三つの柱に整理した。

- ・生きて働く「知識・技能」
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」

さらに、児童・生徒がこれらの資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）の推進が求められている。そして、深い学びの鍵として、各教科等の「見方・考え方」（国語科においては「言葉による見方・考え方」）を働かせることが必要であることを示している。

改訂された国語科の主な内容は以下のとおりである。

(1) 目標及び内容の構成

国語科で育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理するとともに、従来領域ごとに示していた学年の目標も、同様に三つの柱で整理した。

また、従来3領域1事項で構成していた内容を、

を、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」に構成し直し、「思考力、判断力、表現力等」を3領域の指導事項と言語活動例で構成した。

(2) 学習内容の改善・充実

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の各指導事項について、育成する資質・能力が明確となるように改善した。

(3) 学習の系統性の重視

小・中学校を通じて、「知識及び技能」の指導事項及び「思考力、判断力、表現力等」の指導事項と言語事項例のそれぞれにおいて、重点を置くべき指導内容を明確にし、系統化した。

(4) 授業改善のための言語活動の創意工夫

「思考力、判断力、表現力等」の各領域において、指導事項と言語活動例の関係を明確にするとともに、各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から、従来示していた言語活動例を言語活動の種類ごとにまとめた形で示した。

(5) 読書指導の改善・工夫

「知識及び技能」に「読書」に関する指導事項を位置づけるとともに、「読むこと」の領域では、学校図書館などを利用してさまざまな本などから情報を得て活用する言語活動例を示した。

学習指導要領の国語科の目標および内容は、こうした教育課程全体のねらいや国語科改善の基本方針に沿って定められ、その趣旨の具体化を図ったものである。

2. 複式学級における学習指導の特色

複式学級とは、少人数であるため、複数学年による学級集団が形成されるものである。複式学級においては、複数学年の児童を一人の教師によって同時に指導しなければならない。したがって、教育課程や教科の目標・内容・方法上、単式学級とは異なることがあるのは当然である。学年が異

なるため、能力、学ぶ力、体力等において差があり、複線型指導、複式学級独自の指導計画を作成しなければならない。

複式学級の特色として、

- (1) 学年差と同時に、児童の経験や能力の差が見られる場合があること。
- (2) 小規模人数学級（小集団）であること。
- (3) へき地に存在することが多いこと。

などが挙げられる。こうした特色や条件は、学習を進めていくうえで大切な要因となっている。

今後も、出生者数の減少に伴い、児童・生徒数の減少が予想されることから、複式学級を有する小規模校が増加することが考えられる。学年差や能力差を生かし、小規模校であるがゆえにできる学習指導、複式学級であるがゆえにできる学習指導の工夫や改善が求められることになる。

3. 複式学級における指導形態

例えば完全複式では、2個学年の指導をするために、直接指導と間接指導を交互に繰り返す「わたり」の時間的・空間的な指導が必要となってくる。

一般的に単位時間を

〈間接指導→直接指導→間接指導〉

〈直接指導→間接指導→直接指導〉

と、これまでの多くは、教師が二つの学年を「わたり」ながら交互に指導をする形態で授業が展開されてきた。

しかし、1時間の授業の中で、機械的に直接・間接の指導を行うのではなく、あくまでも児童の主体的な学習がされているかどうかに関心を当て、児童の意識の流れに沿った学習を成立させなければならない。児童にとっては、直接も間接も必要はないはずである。

また、「わたり」で児童の思考過程が途切れることがないように、間接指導のための直接指導、直接指導のための間接指導となるような学習指導を行う必要がある。

直接指導は、単式学級の指導法と重なるが、複式学級においては極めて時間が制約されているため、効率的かつ有効な指導の工夫が要求される。

間接指導は、児童の自力解決の場であり、また、児童どうしが教師の指示に頼らず自ら活動を行う場である。そのため、いかに一人学びや、とも

学びなど児童どうしの関わり合いの中で学習を進めることができるかが鍵となろう。日頃から、自ら学ぶ力や学び方を身につけさせるようにしたい。特に、調べ方、整理の方法、まとめの仕方、意見や考えの表現法、何をどのようにして解決していけばよいのかなど、具体的な一人学びの方法を身につけさせるようにすべきである。

これから要求される「生きる力」は主体的に問題解決できる力であり、自らの言語体験を通して培われる力である。

このように考えると、今後の複式学級の指導においては、間接指導をいかに計画的に継続的に工夫・改善するか、自ら学ぶ力をいかにして育てていくかが最も大きな課題となってくる。そして、授業を児童が「生きる力」を培う場とするためには、次の二つの点において工夫が求められる。

その一つは、同領域指導である。これは、複式学級において、それぞれの学年に共通する目標の下に領域を設け、共通の話題や教材を取り上げて、同時に学習を進めようとするものである。教科書においては、異学年間でもなるべく同じ時期に、例えば「読むこと」や「書くこと」などの領域が位置づくよう配列されている。同領域の学習指導の実施に生かしたい。

もう一つは、学年別にそれぞれ指導計画を立てて、目標も教材も異なった指導をする。こうした両学年別個の領域の構成で指導する方法を異領域指導と呼ぶ。以下、同領域指導と異領域指導について解説する。

(1) 同領域学習指導

2個学年に共通する同じような目標のもとに領域を設け、なるべく共通の話題や教材を取り上げて、同時に学習を進め、学習指導の効率を上げようとする指導方法である。これは、共通の学習活動をできるだけ多くして、直接指導の充実を図るとともに、2個学年内での交流を図ろうとするものである。

この指導法方には、次のような長所（○）、短所（●）がある。

- 指導計画作成が一元的になり、教材研究、指導の準備等、学習指導の能率を高めることができる。
- 共通の目標のもとに学習が進められ、協力して学習することができ、好ましい人間関係が作

られ、児童の人間形成にも役立つようになる。

- 下の学年の学習内容を上の学年が行うことで、反復練習を行う機会が得られる。
- 直接指導の機会が多くなり、指導を徹底することができる。

しかしその一方で、

- 上学年の児童の学習能力が、下学年の児童の学習能力と比べて極端に劣る場合、同じ学習を行うことで上学年の児童が劣等感を抱く恐れがある。
- それぞれの児童の発達の段階の違いへの配慮を怠ると、教え込みといった教師主導の学習になりがちになる。

といった留意すべき点もある。

同領域指導においては、

- ☆ 国語の能力と、学習に対する興味・関心など、児童の実態把握に努めること。
- ☆ 学習の系統を意識しておくこと。

等々、児童と学習材の把握に努め、指導目標、内容、教材等を吟味しなくてはならない。

そしてこの場合、同領域異教材構成と同領域同教材構成との二つの指導方法が考えられる。

① 同領域異教材指導（わたりの活用）

2個学年の学習内容が、例えば、物語の読解で共通しているが、扱う学習材や教材が異なる場合の指導を指す。扱う学習材や教材が異なる指導ではあるが、同じような目標で指導することを意図しながら、目標を達成していく。通常、複式学級においては、この指導が一般的と思われる。

同一の領域として主目標は同じであり、話題・題材も大体同一のものであり、学習活動も共通な部分がある。しかし、学年ごとに主となる学習材・教材が異なるため、間接指導が行われる。

教科書を使用する場合は、同領域異教材で計画することは自然であろう。ときには、教科書の指導時期が異なっても、それらを組み合わせることで同領域で構成することが可能である。その場合、なるべく学習材・教材の間に関連する点や共通する点を見つけ、両学年に共通する目標と学年間の能力差に応じた目標を設定して、同一領域を構成することが大切である。

しかし、効率的な指導を行うため、学年独自の目標や指導事項の達成をおろそかにしたり、共通目標が抽象的なものになったりしないよう、十分留意しなければならない。

② 同領域同教材指導（わたりなし）

いわゆる単式指導と同じであるが、指導に当たっては、同じ学習材・教材を用いて同じ目標を掲げ、能力差、学年差に応じた取り扱いをすることを指す。

同領域同教材で指導する場合、教材の準備や指導方法等、教師の活動は一元的になり、指導の過程においても、学級にまとまった学習の雰囲気生まれ、共通の意識が高まり、活動も活発になって指導の効果が上がることになる。

しかし、次のようなことに、特に留意しなければならない。

- ☆ 児童の経験や能力の差などを、学年差ではなく、能力差としてとらえること。特に漢字や語句の指導、課題の出し方、学習のてびき等、単式学級よりも能力差に対する配慮をきめ細かにすること。
- ☆ 二つの学年の下位学年生の、学期当初の入門期の指導をすること。
- ☆ 各学年の発達の関連や系統を明らかにしておくこと。等

(2) 異領域学習指導（学年別指導）

複式学級の2個学年が、独自に学習を進める指導方法である。例えば、1年が物語教材の内容を読解しているとき、2年は説明文の導入の話し合いをするというように、それぞれが別々の学習を進める指導方法である。

この指導方法には、次のような長所（○）、短所（●）がある。

- 各学年の目標を、発達段階や児童の実態に合わせて設定できる。
 - 学年ごとの学習を行うことで、系統立てた学習内容の充実を図ることができる。
- しかしその一方で、
- 指導計画の作成、教材の研究、資料、教具の準備等を学年別にしなければならないため、教師の負担が増える。
 - 間接・直接指導の組み合わせが複雑で、教師

の配慮や活動で、「わたり」を用いた特別な配慮が必要となる。

- 各学年の学習活動が全く異なるため、児童によっては、他方の学習へ気をとられるなど、学習に集中できなくなることがある。
 - 学年の人数が少ないため、問題解決において、学習を広めたり深めたりすることが難しい。
- 等々、さまざまな学習指導上の問題がある。

異領域学習指導においては、

☆ それぞれの学年での学習活動において、児童が何をするのか、何のためにするのかといった方法や目的の明確化を図る。

☆ 児童が学習に集中できるような「学び方」の指導を行い、学習の進め方を児童自身に分かるような約束を作る。

といったことに留意しておく必要がある。

4 国語科の複式指導の留意点

現在、児童・生徒に「生きる力」を育てるために、さまざまな教育の改革が進められている。

へき地および複式学級でも、少人数や能力差の問題、変則複式や変動複式の発生、また、少人数に起因する表現力、多面的な思考訓練の問題、一人学習、話し合い学習や集団活動の設定の問題等々、教育課程の編成、指導計画の作成、学習形態や指導方法など、工夫を要する課題が山積している。

さらに、小規模校や複式学級における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）の創意工夫も求められる。

以下、複式学級の国語科指導にあたっての留意点を考えてみる。

(1) 語彙を豊かにする

表現が豊かになるよう、計画的、継続的な指導をする。特に、自分の経験や考えを人前で自由に発表することに慣れさせることを大切にしたい。

少人数の複式学級に育つ児童の表現力を豊かに伸ばすことは容易なことではないが、日常生活や学校生活において話すことの場面を想定し、その場面に応じた話し方を、意図的、計画的に徹底して指導し、好ましい言葉の使い方ができ

るようにしたい。

(2) 読む力を高める

多読することは、語彙を増し、思考力を培い、「話す・聞く力」や「書く力」を培うことにも貢献する。学校図書館や学級文庫の充実を積極的に進めたい。意図的に並行読書を取り入れるなど、児童が必要な本を自ら選んで主体的に「読む力」を育てたい。

(3) 書く力を高める

学習の振り返りやまとめを書くことは、学びを深める手立ての一つとなる。書く内容については、授業の感想ではなく、「何をどのように学んだか」「新しく学んだことは何か」「分かったことや疑問に思ったこと」などを書けるようにしたい。

(4) 目標や方法を明確にして学習を進める

単元の指導、1時間の指導で、

- 学習の目標をより焦点化し、何をするのか、児童にねらいがしっかり受け止められていること。
- そのために、どのような学び方をするのか、学習の進め方が分かっていること。

複式学級での間接指導は、準備のための調べる学習だけでなく、直接指導につながる事が重要であり、児童自身の自主的、効率的な生きた学習を促すよう工夫したい。

(5) 1時間完結型の授業

前時の学習を確認（復習、想起）して本時の学習に入りたいという思いが強くなり、いつのまにか導入が長くなることがある。そうすることで、一人学びやとも学びの時間が十分に確保できなくなる場合がある。また、とも学びで課題解決に迫ったときに時間が来てしまい、まとめができないまま授業が終わってしまうこともある。

そこで、導入からまとめ、振り返りまでの時間配分を細やかに【メニューカード】に記入する。それを黒板に掲示し、授業者と児童が共有することで、時間を意識して学習を行っていく。限られた時間を最大限に有効に活用して、1時間完結型の授業を目指したい。

→[資料:メニューカード](p7~9) 参照

(6) 学習リーダーを育てる

学習リーダーを活用した授業は、児童が主体的に学習活動を展開するための手立ての一つとなる。ここで大切なことは、学習リーダーが司会的な役割にならないように、基本となる「学習リーダーの手引き」に沿って学習を進めるなどの工夫をすることである。リーダーの役割を明確にし、児童に、自分たちで問題解決をしていくという実感を持たせたい。併せて、直接指導にリンクした間接指導につなげていきたい。

(7) 一人学びからとも学びへ

複式学級では、児童どうしの関わり合いの中で学習を進める一人学びやとも学びが重要となる。前時までの学習や本時の学習の見通しを基にしながら、自力解決をするよう促す。

一人学びをとも学びに広げる方法として、

- ①ノートを書画カメラで映し説明する。
- ②ホワイトボードに自分の考えを書き説明する。
- ③ホワイトボードに書いた他の児童の考えを説明する。

などが考えられる。

とも学びを充実させるため、一人学びがしっくりとできるよう、具体的な学びの方法を身につけさせたい。



5 本資料作成の趣旨について

本資料は、1・2年、3・4年、5・6年の、いわゆる「完全複式」をひとまずの前提としている。

しかし、それだけではなく、2・3年学級、4・

5年学級での国語科指導についても指導計画や指導事例を示すようにした。それは、今日、学校経営の多様化や学年ごとの児童数が異なることなどの事情により、必ずしも完全複式ではない学級(2・3年複式、4・5年複式)が存在しているからである。

この場合、指導時数が学年で異なるという問題が起こってくる(※国語科の授業時数は、低学年が週9時間、中学年が週7時間、高学年が週5時間)。実際の2・3年学級などでは、その時間数の違いは、他教科等との組み合わせや、週ごとの教科のまとめ取りなど、学校独自の編成によって解消している。

そこで、本資料の指導計画案においては、単元の配当時数を一つの目安として考え、原則として単式指導の場合の時数をそのまま示すこととし、各校の実情に応じた運用ができるようにした。

そして、本資料においては、教科書の単元・教材の配列を意識し、同領域指導を基本にしつつ、目標の達成や教材の特質の面から特に必要と思われる場合には、異領域指導を用いた年間指導計画を作成した。

教科書では、1年上巻を除き、例えば、「読むこと」、「書くこと」などの領域をほぼ同じ時期に配列する構成をとっている。そのため、なるべく教科書の順序に沿って実施する複式指導計画案作成を目指したのである。

年間指導計画案では、同領域異教材で「わたり」を行う指導を「Ⅰ」、同領域異教材で一部一斉を行う指導を「Ⅱ」、同領域同教材を「Ⅲ」と表示し、異領域異教材などⅠ～Ⅲのどれにもあてはまらない指導を「Ⅳ」と表示した。

「Ⅰ」は、例えば、両学年とも物語を読むことを中心としたねらいとしているが、学習する内容が異なる場合であり、「わたり」を多く行うようになる。

「Ⅱ」は、例えば「スピーチをしよう」などの活動単元において、その話題を2個学年の教科書から選択するといったことや、両学年の物語教材の両方を「比べ読み」をするといった、両学年がいっしょに学習する場を増やす指導法であり、一部「わたり」を取り入れる。そうすることで、単式学級では行うことが難しい、複式学級独自の指導計画作成ができるのではと考えた。

「Ⅲ」は、2個学年が同じ単元・教材で学習を

し、基本的に「わたり」を行わない場合である。

複式学級において「わたり」をどのように行うのかは、指導する教師にとってたいへん難しい課題である。そのためかつては、「わたり」を減らそうと、両学年の教科書教材・補助教材も含めてA年度、B年度に振り分け、A年度計画、B年度計画を作成し交互に実施することも行われていた。しかしながら、今日においては、転校する児童への配慮や、先に述べた流動的な学級編成といった事情から、AB年度方式による指導の実施は現実的ではないという声が、学校現場からあがってきている。そこで、教科書の教材は基本的には、各学年の内容はその学年において取り扱い、児童

の実態や教材の内容において、2個学年がいっしょに学習を行うことが望ましい場合は、同領域同教材指導を取り入れていくという基本方針を立て、指導計画を作成することとしたのである。

なお、指導計画とは別に、1・2年、3・4年、5・6年学級でそれぞれ2本、2・3年、4・5年学級でそれぞれ1本、指導事例を紹介している。指導事例として示すものは同領域指導を基本とした。

こうした実践例や指導計画が、複式学級で日々取り組まれ、苦心されている先生がたのお役に立てるならば幸いである。

1	ふくしゅう	()
2	もんだい	()
3	めあて	()
4	みとおし	()
5	ひとりまなび	()
6	ともまなび	()
7	まとめ	()
8	れんしゅう	()
9	ふりかえり	()

1	ふくしゅう	()
2	もんだい	()
3	めあて	()
4	見通し	()
5	ひとり学び	()
6	とも学び	()
7	まとめ	()
8	れんしゅう	()
9	ふりかえり	()

1	ふく習	()
2	問題	()
3	めあて	()
4	見通し	()
5	ひとり学び	()
6	とも学び	()
7	まとめ	()
8	練習	()
9	ふり返り	()

※ 本資料の基本的な考え方は

- 教科書の単元、領域の配列を、なるべく生かす。
- A・B年度方式はとらない。
- 配当時数は目安とし、原則として単式の指導計画と同じ時数を示す。
- 基本案は、同領域指導案とする。

ただし、1年生の1学期は、異単元指導を基本とする。また、指導内容や児童の実態に即して、特に必要または効果的と考えられる場合、異領域指導案を示す。

- 同領域指導案は、Ⅰ案～Ⅲ案で構成する。

「Ⅰ」…（異教材で「わたり」を行う扱い）

二つの学年の学習内容が、例えば、物語の読解で共通しているが、扱う教材・学習材が異なる場合の指導。

「Ⅱ」…（異教材で一部一斉指導を行う扱い）

教材の扱いや学習活動を工夫して、一部二つの学年がいっしょに学習する場を設け一斉指導を行う場合の指導。

「Ⅲ」…（同教材で「わたり」を行わない扱い）

いわゆる単式指導と同じであるが、指導に当たっては、同じ教材を用いて同じ目標を掲げ、能力差、学年差に応じた取り扱いをする指導。

そして、次の内容構成になっている。

② 指導事例

- 1・2年, 3・4年, 5・6年, 各2案
- 2・3年, 4・5年, 各1案

① 複式年間指導計画案

- 1・2年, 3・4年, 5・6年
- 2・3年, 4・5年

指導計画作成に当たっては、年度当初に児童や学校の実態を分析し、どの形態が最も適当であり、どう組み合わせるとより効果的な指導がなされるかを十分検討し、児童に最もふさわしい指導計画が作成されるようにしたい。

国語教室開き

1年 さあはじめよう／よろしくね

2年 すきなこと、なあと

国語学習のスタートとして、わたりを行わず、1・2年生がいっしょに学習をする。1年のスタートカリキュラムに沿って、1・2年生が共に自己紹介をし合ったり、声をしっかり出してリズムに乗って音読したりすることを通して、国語の学習の楽しさを味わえるようにする。

1. 単元の目標と評価規準

【目標】

- ・言葉のリズムを楽しみながら、みんなといっしょに声を出すことができる。
- ・互いの話（他者）に関心を持ち、名前などを伝え合ったり、相手の発言を受けて話をつないだりして、互いのことを知ることができる。

【言語活動】

- ・声を合わせたり動作をつけたりして音読する。
- ・互いのことを知り合うために、自己紹介や対話をする。A(2)アイ

【評価規準】

- [知技] ①姿勢に注意して話している。(1)イ ※1・2年
 ②言葉の響きやリズムに気を付けて音読している。(1)ク ※1・2年
 ③身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている。(1)オ ※1・2年
 ④言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア ※2年
- [思判表] ①「読むこと」において、読んだ感想を共有している。C(1)カ ※1・2年
 ②「話すこと・聞くこと」において、伝えることを選んでいる。A(1)ア ※1・2年
 ③「話すこと・聞くこと」において、集中して聞いている。A(1)エ ※1・2年
 ④「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。A(1)オ ※2年
- [主] ①これから始まる国語の学習や新しい友達に関心を持ち、言葉の響きやリズムに気を付けて工夫して音読したり、友達と互いのことを伝え合ったりしようとしている。 ※1・2年
 ②これまでに学習したことや友達と対話した経験を振り返って学習課題を明確にし、進んで互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぎながら対話をしようとしている。 ※2年

2. 単元の学習の流れ（3時間扱い 話す・聞く）（○内の数字は配当時数）

次	1年の学習活動	2年の学習活動	指導の工夫・支援（・）評価（◎）
一次 ①	○1上教科書p.1～7の見開きを見て見つけたことや気づいたことを話し合った後、言葉のリズムを体の動きで表してみたり、声の出し方を考えて読んでみたりする。		・2年がリードして、体を動かしたり、声の出し方を工夫して音読したりすることができるように配慮する。 ◎【知-①②, 思-①, 主-①】（発言, 音読）
二次 ②	○教師の自己紹介を聞き、名前を伝える話型を確かめ、名前の他にも伝え合うことを決める。 ○2年生は、教科書の対話例から、楽しくやりとりするためにどのように話したり聞いたりするとよいかについても考える。 ○全員の友達と自己紹介をし合って、握手をする。 2年生は、友達の好きなことを受けて対話をする。		・「わたし（ぼく）は、～です。」「～がすき（だいすき）です。」の話型を示す。 ・2年生は、教科書p.10-11の対話例から、楽しくやりとりするためには、相手の発言を受けて共感したり、質問したりするなど話をつないでいくことが大切だということに気づかせるようにする。 ◎【知-③④, 思-②, 主-①②】（行動観察） ・生活科の時間等を活用して、名刺や好きなものを描いた絵を作っておく。 ◎【知-③④, 思-③④, 主-①②】（自己紹介, 対話）

3. 複式学級としての配慮

1・2年がいっしょに国語教室開きを行う。教科書は互いのものを使用するために、1・2年生でペアやグループを作り学習する。単式学級と同じ形式で授業を行うが、児童の発達の差を考慮する。

1年は、スタートカリキュラムを意識し、児童の実態に合わせて時間や内容は弾力的に行う。2年は、1年と共に学習を行うが、対話をするという言語活動に重点を置き、対話をするときの話のつなぎ方についても学習する。

国語を学ぶ楽しさ、異学年で学ぶ楽しさを味わわせるようにしたい。

4. 授業の実際（第1時，第3時）

（第1時）さあ、はじめよう

目標 言葉のリズムを楽しみながら、みんなといっしょに声を出すことができる。

展開 □：直接指導 ■：間接指導

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○1年の学習活動		○2年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
※絵や言葉から見つけたことや気づいたことを自由にさせよう。 ※教科書と同じ絵や文章を黒板にも提示する。	<u>1. 課題をつかむ</u> ○異学年ペアで、1上教科書p.1～7を見て、見つけたことや気づいたことを話す。		（学習活動，指導上の留意点，評価（方法）は1年に同じ）	
みんなで いっしょに こえを だして よんでみよう。				
※まず，教師が読み聞かせをして，「とん とんととん」「たん たんたたたん」などのリズムのよさに気づかせる。 ※先に2年生に読ませ，どんな声の出し方や読み方をしたらよいか考えさせる。 ※1年生は，2年生のまねっこ読みに挑戦させる。 ※全員でいっしょに読んだり，1文ずつ交互に読んだりして，共に声を出す楽しさを味わわせる。 ◎【知-①②，思-①，主-①】 姿勢に注意したり，体を動かす，友達と交互に読むなどリズムに合わせて読み方を工夫したりして，音読を楽しんでいる。（発言・音読）	<u>2. 課題に取り組む</u> ○教師の読み聞かせを聞く。 ○擬声語を体の動きで表してみる。 ○実際に，声に出して読んでみる。 ○体の動きをつけるなどして，リズムを楽しみながら読む。 <u>3. 振り返る</u> ○どのような点に気を付けて読んだか振り返る。			※今日分かったこと，これからがんばりたいことを書かせる。

(第3時) よろしくね/すきなこと、なあと

目標 互いの話(他者)に関心を持ち、名前などを伝え合ったり、相手の発言を受けて話をつないだりして、互いのことを知ることができる。

展開 □:直接指導 ■:間接指導

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○1年の学習活動		○2年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
※1年は前時に学習した話型を使って自己紹介すること、2年は自己紹介だけでなく、友達の話を受けて対話することを確認する。	<u>1. 課題をつかむ</u> ○前時の学習を思い出し、自己紹介し合うことを確かめる。		(学習活動, 指導上の留意点は1年に同じ)	
じこしょうかい ~みんなの ことを もっと しろう~				
※異学年で紹介し合う場合は、2年生がリードして行うよう助言する。 ※2年は、2上教科書 p.10-11の対話例を基に、話をつなぐために気を付けることを確認する。 ※何人かと自己紹介したら、いったん中断し、自己紹介や対話で困っていることはないか確認する。 ※名刺を交換したり、握手したりして交流を深めるようにする。 ◎【知-③, 思-②③, 主-①②】 伝えたいことを選び、話型を用いて話したり、相手の話を集中して聞いたりしている。(自己紹介)	<u>2. 課題に取り組む</u> ○自己紹介し合う。			◎【知-④, 思-④, 主-②】 相手の話の大切なところを復唱したり、相づちを打ったり、質問したりして、話をつないでいる。(対話)
	<u>3. 振り返る</u> ○どのような点に気を付けて自己紹介したり対話をしたりしたか振り返る。			※今日分かったこと、これから取り入れようとしたことを書かせる。

5. 板書計画 (第3時 よろしくね/好きなことなあに)

4
/
○

① えを みせて つたえる。(なまえと すきな もの・こと)
わたし(ぼく)は、
です。

が すき(だいすき)です。

② やりとりする。(2年生)
○ともだちの はなしを きいて つなぐ。
・きいた ことを くりかえす。
・しつもんする。
・かんそうを いう。
・つなぐ ことばを つかう。
ああ
えっ、そうなんだ。 など

③ あくしゅする。
☆がつこうの いろいろな ひとに
じこしようかいして みよう。
☆たのしく やりとりする ポイントを これからの
学しゅうでも つかって みよう。

※第1時については、教科書(1上 p.1-7)を中心に扱うため、板書は省く。

ちえをしょうかいしあおう

1年 くらべてよもう

「子どもをまもるどうぶつたち」

2年 あなのやくわりを考えよう

「あなのやくわり」

1年は「子どもをまもるどうぶつたち」を読み、二つの動物の似ているところや違うところを見つけて共有すること、2年は「あなのやくわり」を読み、自分の体験と結び付けて考え、考えたことを文章にまとめることをねらいとする。単元の最後には、1年は他の動物の知恵について調べたことを、2年は身の回りにある穴の役割（人間の知恵）について考えたことを紹介し合う活動を行う。

1. 単元の目標と評価規準

〔1年〕

【目標】

二つの動物の説明を比べて読み、似ているところや違うところを見つけて共有することができる。

【言語活動】

・説明的な文章を読み、分かったことを伝え合う。C(2)ア

【評価規準】

〔知技〕 ①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク

②共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア

〔思判表〕 ①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ

②「読むこと」において、文章を読んで分かったことを共有している。C(1)カ

③「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア

〔主〕 ①これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しを持ち、積極的に、文章を読んで分かったことを共有し、伝え合おうとしている。

〔2年〕

【目標】

文章の内容と自分の体験とを結び付けて考え、考えたことを文章にまとめることができる。

【言語活動】

・文章を読んで考えたことをまとめる。C(2)ア

【評価規準】

〔知技〕 ①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア

〔思判表〕 ①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ

②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持っている。C(1)オ

③「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。B(1)イ

〔主〕 ①これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて考え、考えたことを文章にまとめようとしている。

2. 単元の学習の流れ（14 時間扱い 読む）（○内の数字は配当時数）

次	1年の学習活動	2年の学習活動	指導の工夫・支援（・）評価（◎）
一次 ①	○p. 101を読み，単元のねらいと言葉の力を捉え，学習の見通しを持つ。	○p. 120を読み，単元のねらいと言葉の力を捉え，学習への見通しを持つ。	・単元の最後に，1年は動物の知恵について調べてまとめること，2年は身の回りにある穴の役割(人間の知恵)について調べたり考えたりしたことをまとめることを確認する。 ◎【1年…主-①】，【2年…主-①】（発言）
二次 ⑤	○二つの動物について，書かれていることを読み取り，二つの動物を比較し，特徴，子どもの身の守り方について表にまとめて，気づいたことを交流する。	○「あなのわくわり」を読み，それぞれの物に穴が開いている理由や説明の仕方を確かめる。	・1年生は「比べて考える」ことを，2年生は「自分の体験や知っていることと結び付けて考える」ことをポイントにして学習を行う。 ◎【1年…知-①②，思-①②，主-①】（ノート，発言），【2年…知-①，思-①，主-①】（ノート，発言）
三次 ⑥	○他の動物の知恵や生活について，本で調べてまとめ，伝える準備をする。	○身の回りにある穴を想起し，その役割を考えたり，本や資料で調べたりして，考えたことをまとめ，伝える準備をする。	・調べる際には，既習「としょかんはどんなところ」（1上p. 104），「としょかんへ行こう」（2上p. 24），「本でしらべよう」（2下p. 23）を活用したり，各学年の「言葉の力」を参考にしたりする。 ・1年生は，「どんな動物か」「どんな知恵を使って子どもを守るか」，教科書の具体例と同じ構成でまとめさせる。 ・2年生は，教科書p. 130のまとめ方（はじめ・中・おわり）の構成でまとめさせる。 ◎【1年…知-②，思-②③，主-①】（ノート，発言），【2年…知-①，思-②③，主-①】（ノート，発言）
四次 ②	○2学年それぞれが，学習成果を発表し交流し合う。		・絵や写真等を提示しながら，聞き手に分かりやすい工夫をさせる。 ◎【1年…知-②，思-②，主-①】（発言，ノート，行動観察），【2年…知-①，思-②，主-①】（発言，ノート）

3. 複式学級としての配慮

一～三次までは，「わたり」を行う学習になる。そこで，単元のスタート時に学習の見通しをしっかりと持たせ，単元の学習計画を児童と共に立てていつでも見られるように掲示しておく。さらに，2年生はできるだけ学習リーダーを中心に学習が進められるように，二次の読み取りの学習を同様のパターンで行えるように工夫する。1年生も1年間学習してきたことを生かして，学習リーダーを中心にとも学びができるように支援する。四次では，異学年に伝えるという相手意識を持たせることで，どのような伝え方をしたらよいかについても考えさせたい。

4. 授業の実際（第2時，第6時）

（第2時）何についてせつ明しているかな

目標 文章を「はじめ」「中」「おわり」に分け，説明されている内容の大体を捉える。

展開 □：直接指導 ■：間接指導

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○1年の学習活動		○2年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
※「いろいろなふね」の構成について振り返る。	<u>1. 課題をつかむ</u> ○題名から，説明されている内容について考える。		<u>1. 課題をつかむ</u> ○題名から，説明されている内容について考える。	※これまでに学習した説明文の構成について振り返る。
文しょうを「はじめ」「中」「おわり」に分けよう。				
※段落番号を記入させる。 ※「問いの文」と「答え」に着目させて分けるようにする。 ※写真を手がかりにさせる。	<u>2. 課題に取り組む</u> ○教師の読み聞かせを聞く。 ○音読する。 ○10段落を「はじめ」「中」「おわり」に分け，それぞれのまとまりに何が説明されているか話し合う。		<u>2. 課題に取り組む</u> ○音読する。 ○6段落を「はじめ」「中」「おわり」に分け，それぞれのまとまりに何が説明されているか話し合う。（ひとり学び→とも学び）	※段落番号を記入しておくように伝える。 ※学習リーダーが，時間の管理と司会をする。黒板に記録しながら話し合わせることによって，教師が確認できるようにする。
◎【思-①】 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（発言，ノート）	<u>3. 振り返る</u> ○学習したことをノートに書く。 ○学習を振り返って，分かったことや思ったことを書く。		<u>3. 振り返る</u> ○どのようなことに着目して，「はじめ」「中」「おわり」に分けたのかについて確かめる。 ○学習を振り返って，分かったことや考えたことを書く。	※「問いの文」と「答え」，四つの事例，「このように」というまとめて言うときに使う言葉等に着目できたかを確認する。 ◎【思-①】 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（発言，ノート）

(第6時) 書いてあることをたしかめよう

1年の目標 二つの動物を比べて、似ているところや違うところを見つけて共有することができる。

2年の目標 文章の内容と自分の体験とを結び付けて考えることができる。

展開 □：直接指導 ■：間接指導

※指導上の留意点 ◎評価(方法)	○1年の学習活動		○2年の学習活動	※指導上の留意点 ◎評価(方法)
<p>※二つの動物を比較した表を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>二つのどうぶつのにていているところやちがうところをたしかめよう。</p> </div>	<p><u>1. 課題をつかむ</u></p> <p>○前時までにまとめた表を見て、気づいたことを発表し合う。</p>		<p><u>1. 課題をつかむ</u></p> <p>○前時までにまとめた表を見て、気づいたことを発表し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>じっさいに見たり、手にとったりしてたしかめよう。</p> </div>	<p>※「あなのやくわり」についてまとめた表を提示する。</p>
<p>※似ているところと違うところで色を分けた線を引かせて話し合わせる。</p> <p>※学習リーダーが司会をしながら、話し合ったことが分かるように、提示した表にも線を引かせる。</p> <p>◎【思-②】 文章を読んで分かったことを共有している。(発言, ノート)</p>	<p><u>2. 課題に取り組む</u></p> <p>○自分の作成した表に、アンダーラインを引いて調べて話し合う。(ひとり学び→とも学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にている=子どもを口でくわえることができない。 ・にている=知恵を使って、子どもを守っている。 ・ちがう=オオアライグマは、子どもを背中に乗せて運ぶ。コチドリは、自分がけがをしていると見せかけて、敵の注意をひなからそらす。 <p>○共通点や相違点について気づいたことを交流する。</p> <p><u>4. 振り返る。</u></p>		<p><u>2. 課題に取り組む</u></p> <p>○実物を見たり手に取ったりしながら、まとめたことを確かめ、思ったことや考えたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十円玉は手で触って確かめられるし、穴があると分かりやすいな。 ・他の物は、目で見ただけでは分かりにくいけど、穴の役割ってすごいなあ。 <p>○穴の役割と自分の体験とを結び付けて考えたことを交流する。</p> <p><u>4. 振り返る。</u></p>	<p>※五十円玉やプラグ、植木鉢、しょうゆさしを用意して見せるようにする。</p> <p>※見て確かめられないことは、図を基に話し合わせる。</p> <p>◎【思-②】 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。(発言, ノート)</p>

5. 板書計画

(第2時)

(1) 1年生の板書

<p>☆ 二つの どうぶつの 子どもの まもりかたを くらべて みよう。</p>	<p>おわり</p> <p>10</p> <p>「たえ・まとめ」</p> <p>どうぶつたちは、さまざまなかえをつかって、 子どもを てきから まもって いる。 子そんを のこし、いのちを つないで いる。</p>	<p>中</p> <p>9 8 7 6 5 4 3 2</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>コチドリ の せつめい</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>オオアリの せつめい</p> </div> </div>	<p>はじめ</p> <p>1</p> <p>「と」</p> <p>どうぶつたちは、どのような ちえを つかい、 てきから 子どもを まもるのでしょうか。</p>	<p>2 / ○</p> <p>子どもを まもる どうぶつたち なるしま えつお</p> <p>文しように はじめ・中・おわりの 三つに わけよう。</p>
--	---	---	---	--

(2) 2年生の板書

<p>☆ 四つの あなの やくわりについて まとめよう。</p>	<p>おわり</p> <p>6</p> <p>「たえ・まとめ」</p> <p>このように、あなには、いろいろな やくわりが ある。 みの回りに ある あなを さがして、どんな やくわりが あるか 考えて みよう。</p>	<p>中</p> <p>5 4 3 2</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>しょうゆさしの あな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>うえ木ばちの そのの あな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>コンセントに さしこむ プラグの あな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>五十円玉の あな</p> </div> </div>	<p>はじめ</p> <p>1</p> <p>「と」</p> <p>あなは、何の ために あいて いるのでしょうか。(あなの やくわり)</p>	<p>2 / ○</p> <p>あなの やくわり にいだ ゆみこ</p> <p>文しように はじめ・中・おわりの 三つに 分けよう。</p>
--------------------------------------	--	--	--	--

(第6時)

(1) 1年生の板書

2 / □

子どもを まもる どうぶつたち なるしま えつお

二つの どうぶつの に い る と こ ら や
ち が う と こ ら を た し か め よ う 。

<p>子どもを まもるか。</p> <p>どんな ちえを つかって 子どもを まもるか。</p>	<p>子どもを せなかに のせては こぶ</p> <p>おやの からだの もようど 子どもの からだの もようが つながって 見え、てまから 子どもが 目立たなく なる。</p>	<p>てまを 見つけるよ、 早足で、 すから とあそぶか。 なまこえを 上げ、 はねを パサパサと ははたかせる。 さらに、 はねを ひきずりながら、 ようようど あるいて、 すから とあそぶ はなれる。</p>	<p>オオアライクイ</p> <p>ながい したを つかって アライヤ シロアライを とる どうぶつ。 したを しまつて お くために、 口は ほぞながく なつて いる。</p>	<p>コチドリ</p> <p>小さな わたりどり。 なつに、 日本に やつてきて、 かいがんや かわら、 はたけなど、 ひらけた ほしよで 子をたてを する。</p>
--	---	--	---	---

○子どもをくわえてはこぶことができない。
 ☆二つのどうぶつの子どものまもりかたは
 ちがうけれど、口でくわえてはこぶないので、
 ちえをつかって子どもをまもっているのは、
 おなじだ。すごいなあ。

(2) 2年生の板書

2 / □

あなの やくわり
にいだ ゆみこ

あなの やくわりに ついて、じつさいに見たり、
 手に とったりして たしかめよう。

<p>昔の五十円玉と百 円玉の写真</p>	<p>さわった ときに百 円玉とく べつする ため。</p>	<p>まん中</p>	<p>ばしよ</p>	<p>五十円玉</p>
<p>コンセントとブラ グの図</p>	<p>出っぱり を引つか けるため。</p>	<p>先</p>	<p>プラグの</p>	<p>コンセント の プラグ</p>
<p>植木鉢の中が分か る図</p>	<p>水を外に 出すため。</p>	<p>そこ</p>	<p>そこ</p>	<p>うえ木ばち</p>
<p>しょうゆさしか らしょうゆが出 る仕組みの図</p>	<p>もう一つ は、空気が入 るため。</p>	<p>上</p>	<p>入れもの</p>	<p>しょうゆさ</p>

☆どの あなにも たいせつな やくわりが
あるんだね。

国語教室開き

3年 何をしているのかな／くらべてみよう

4年 もしも、どうしたい／グループにまとめて整理しよう

国語学習のスタートとして、わたりを行わず、3・4年がいっしょに学習をする。対話を通して共通点や相違点を見つけたり、表などに整理したりする学習をして、中学年の国語教室開きを行う。

1. 単元の目標と評価規準

【目標】

- ・互いの考えに関心を持ち、共通点や相違点に着目しながら、同意したり質問したりして話し合うことができる。
- ・目的を意識して、集めた材料を共通な性質に基づいて、整理したり比較したりすることができる。

【言語活動】

- ・互いの考えを伝えるなどして、対話する。A(2)ウ
- ・考えたことを整理したり比較したりする。

【評価規準】

- 【知技】 ①言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア
②比較や分類の仕方を理解し使っている。(2)イ
- 【思判表】 ①「話すこと・聞くこと」において、互いの意見や考えの共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。A(1)オ
②「書くこと」において、目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア
- 【主】 ①課題を明確にして学習の見通しを持ち、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら対話したり、目的を意識して観点を見付け、比較したりして、表に整理しようとしている。

2. 単元の学習の流れ（4時間扱い 話す・聞く、書く）（○内の数字は配當時数）

次	3年の学習活動	4年の学習活動	指導の工夫・支援（・）評価（◎）
一次 ②	○3年「何をしているのかな」の教科書の対話例を読み、対話を続けるためにはどうしたらよいのか考える。 ○4年「もしも、どうしたい」の教科書の対話例を読み、互いに共通点や相違点を見つけながらやりとりを続けるにはどうしたらよいのか考える。		(3年) ・二人一組での話し合いをした経験を想起させる。 ・対話例から、対話を続けるためのポイントを考えさせる。 ◎【知-①, 思-①, 主-①】（発言）
			(4年) ・3年の指導の工夫・支援と同じ。 ・話し合いの練習で、3年の話し合いを見せて、良かったところやアドバイスなどを伝えさせる。 ◎【知-①, 思-①, 主-①】（発言）
二次 ②	○3年「くらべてみよう」の教科書p.12の表から、おやつの良いところをまとめているということを確認する。それから、教科書p.13の表を作成することで、表の良さを確認する。 ○4年「グループにまとめて整理しよう」の教科書P12を参考にし、自分が一年間で頑張りたいことをカードに書く。それから、カードを仲間分けすることで、多くの事柄の整理の仕方について考える。		(3年) ・山下さんの書いたカードの仲間分けを先にすることで、どのような観点で分けるかの手掛かりにさせる。 ◎【知-②, 思-②, 主-①】（ノート）
			(4年) ・3年の指導の工夫・支援と同じ。 ・3年のカードの分類や整理を、アドバイスをしながらいっしょに行う。 ◎【知-②, 思-②, 主-①】（ノート）

3. 複式学級としての配慮

3・4年いっしょに国語教室開きを行う。教科書は、互いのものを使用するために、3・4年生でペアやグループになって学習する。単式学級と同じ形式で授業を行うが、児童の発達の差を考慮し、3年と4年では評価の観点を変えるようにする。また、4年が3年にアドバイスを رفتりするなど、異学年での関わりを多く取り入れる。

4. 授業の実際（第1時，第4時）

（第1時）何をしているのかな

3年の目標 互いの意見の共通点や相違点に着目し，同意したり質問したりして反応を示しながら話し合うことができる。

4年の目標 互いの意見に関心を持ち，共通点や相違点に着目しながら話し合いを続けることができる。

展開 □：直接指導 ■：間接指導

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○3年の学習活動		○4年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
※教科書の絵を示し，何をしているのかペアで話し合いをさせる。	<u>1. 課題をつかむ</u> ○教科書の絵を見て，何をしているのかペアで話す。		(学習活動，指導上の留意点は3年に同じ)	
話し合いがづくためのポイントを見つけよう。				
※対話例を掲示し，対話が続いているポイントだと思うところに線を引かせる。 ※「質問すること」「相手の意見を受け止めること」が話し合いを続けるポイントになることを押さえる。 ※実際に話し合いを行わせることで，ポイントの大切さを実感させる。また，話し合いをしてみても，見つけたポイント以外にも大事だと思うことなど，気づいたことを出し合い，話し合わせる。 ◎【思-①】 対話を通して，互いの考えの共通点や相違点に着目している。（発言）	<u>2. 課題に取り組む</u> ○教科書の対話例を見て，どうして話し合いが続いているのか考える。 ○見つけたポイントを生かして対話する。 ○実際に話し合っ気づいたことを出し合う。			◎【思-①】 対話を通して，互いの考えの共通点や相違点に着目して，考えをまとめている。（発言）
※今日分かったことをノートに書かせる。	<u>3. 振り返る</u> ○これから話し合いを続けるために，自分がやってみようと思うことをノートに書く。			※今日分かったことや，自分が見つけた話し合いを続けるポイントをノートに書かせる。

(第4時) グループにまとめて整理しよう

3年の目標 目的を意識して観点を見付け、比較することができる。

4年の目標 集めた材料を共通な性質に基づいて分類したり、整理したりすることができる。

展開

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○3年の学習活動		○4年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
<p>※たくさん頑張りたいことを出させ、発表をするにはこのままでは難しいということを押さえる。</p> <p>※教科書4上p.12「四年生の一年間でがんばりたいこと」を実際に仲間分けさせる。困っている場合は、「学校に関係するもの」「家のこと」「習い事のこと」など、先に見出しを示し、グループ分けをさせる。</p> <p>※困難を示している児童がいれば、山下さんのカードを仲間分けしたように、先に見出しの例を示す。</p> <p>◎【知-②, 思-②】 話題について考えたことをカードに書き出し、グループ分けしたり見出しを付れたりして整理している。(ノート)</p> <p>※今日の勉強で分かったこと、難しかったことを書かせる。</p>	<p><u>1. 課題をつかむ</u> ○3年生の1年間で「自分ががんばりたいこと」を考えカードに書く。</p> <div data-bbox="539 618 1034 678" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>なかま分けをして、整理しよう。</p> </div> <p><u>2. 課題に取り組む</u> ○教科書 p.12を読んで、グループ分けをする。</p> <p>○「自分ががんばりたいこと」を書いたカードを仲間分けする。</p> <p><u>3. 振り返る</u> ○多くの事柄の整理の仕方について、学習したことを振り返る。</p>		<p>(学習活動, 指導上の留意点は3年に同じ)</p>	<p>◎【知-②, 思-②】 カードに書き出した事柄どうしを比較して共通点や相違点を見つけ、グループ分けしたり見出しを付れたりして整理している。(ノート)</p> <p>※今日の勉強で分かったこと、次から取り入れたいことをノートに書かせる。</p>

5. 板書計画 (第1時, 第4時)

(第1時 何をしているのかな)

<p>4 / ○ 何をしているのかな</p> <p>話し合いがつづくためのポイントを見つけよう。</p>	<p>教科書 p. 10-11 対話例</p>	<p>話し合いをつづけるポイント</p> <ul style="list-style-type: none">・ しつもんをする。・ 相手の意見を受け止める。・ はんのうしている。	<p>もう一度やってみよう</p> <ul style="list-style-type: none">・ はんのうするだけでなくて、話を広げるためのしつもんがだいじ。・ 自分の意見はしっかり相手につたえる。
--	-------------------------	--	---

(第4時 グループにまとめて整理しよう)

<p>4 / □ なかま分けをして、整理しよう。</p>	<p>教科書 p. 12 「四年生の一年間でがんばりたいこと」</p> <ul style="list-style-type: none">・ きゅう食をしつかり食べる。・ 漢字の宿題をていねいに書く。・ わすれ物をしない。・ おふろそうじを毎日する。・ 水泳のテストでごうかくする。	<p>教科書 p. 13 「書き出したカードを整理したれい」</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「学校」「家庭」「習い事」でなかま分けしている。・ 見出しをつけてなかま分けをしている。	<ul style="list-style-type: none">・ たくさんのことを、にているものど うしでなかま分けすると、見やすいし 分かりやすい。・ 文章を書くときや、発表するときに役立つ。
----------------------------------	--	--	---

説明文を読み、感想や考えを持とう

3年 世界の家のつくりについて考えよう
「人をつつむ形—世界の家めぐり」

4年 日本語の数え方について考えよう
「数え方を生みだそう」

3年は「人をつつむ形—世界の家めぐり」を読み、筆者の考えと、理由や事例との関係に気を付けながら、筆者のものの見方や考え方を捉え、理解したことに基づいて感想や考えを持つことをねらいとして学習する。4年は「数え方を生みだそう」を読み、筆者の考えを読み取り、日本語の数え方に対する自分の考えをまとめることをねらいとして学習する。

1. 単元の目標と評価規準

〔3年〕

【目標】

筆者の考えと、理由や事例との関係に気を付けながら、筆者のものの見方や考え方を捉え、理解したことに基づいて感想や考えを持つことができる。

【言語活動】

- ・読み取ったことを基に、考えたことを伝える。C(2)ア

【評価規準】

〔知技〕

- ①考えとそれを支える理由や事例など情報と情報の関係について理解している。(2)ア

〔思判表〕

- ①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。

C(1)オ

- ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。C(1)カ

- ③「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア

〔主〕

- ①これまでに学習したことや他教科での学習経験を生かして学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えを持ち、読んで分かったことや考えたことを伝えようとしている。

〔4年〕

【目標】

筆者の考えを読み取り、日本語の数え方に対する自分の考えをまとめることができる。

【言語活動】

- ・説明的な文章を読み、分かったことを伝え合う。C(2)ア

【評価規準】

〔知技〕

- ①考えとそれを支える理由や事例について理解している。(2)ア

〔思判表〕

- ①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。C(1)ウ

- ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。C(1)カ

- ③「書くこと」において、目的を意識して、想像したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア

〔主〕

- ①これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、見通しを持って、進んで文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、自分の考えを広げて書こうとしている。

2. 単元の学習の流れ（11時間扱い 読む）（○内の数字は配当時数）

次	3年の学習活動	4年の学習活動	指導の工夫・支援（・）と評価（◎）
一次 ①	○これまでの学習を振り返り，単元の学習の見通しを立てる。	○扉(p. 85)を読み，単元のねらいと言葉の力を捉え，学習の見通しを持つ。	(3年) ・単元の最後に，自分たちの土地の特徴や人々のくらしに合った家を考えることを確認する。 ・全文を音読して，意味の分からない言葉や読むことができない漢字がないかを確認し，辞書を引かせたり，読み仮名を付けさせたりする。 ・段落番号を振らせる。 ◎【主-①】（発言，ノート）
			(4年) ・単元の最後に，筆者の考え方を参考に新しい数え方を考えることを確認する。 ・全文を音読して，意味の分からない言葉や読むことができない漢字がないかを確認し，辞書を引かせたり，読み仮名を付けさせたりする。 ・段落番号を振らせる。 ◎【主-①】（発言，ノート）
二次 ⑥	○教材文を読んで，筆者が紹介している世界の家のつくりについて，家のつくりの工夫や，その土地の特徴やそこに住む人々のくらしとの関係について考える。	○筆者の考え方について読み取り，筆者に対する自分の思いや考えたことを話し合う。そして，日本語の数え方についての自分の考えを書く。	(3年) ・写真や絵を掲示する。 ・「家の特徴」と，「土地の特徴や人々のくらし」の二つの項目に分けて考えさせる。 ・筆者が紹介している世界の家の特徴を，穴埋め問題形式にして読み取らせる。 ・「なぜ，このような家に住んでいるのか」という問いを投げかけ，「家の特徴」と「土地の特徴や人々のくらし」とを関連付けて読み取らせる。 ◎【知-①，思-①】（発言，ノート）
			(4年) ・児童の実態に応じて，文章のはじめ・中・終わりの一部を知らせるようにする。 ・「日本の数え方」と「アメリカの子どもたちから挙がった数え方」を比べながら読ませる。 ◎【知-①，思-①】（発言，ノート）

三 次 ③	○学習したことを基に、日本の家のつくりについて考える。そして、自分たちの住んでいる土地の特徴や人々の暮らしに合った家を考える。	○筆者の考え方を参考にして、新しい数え方を考える。	(3年)
			<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる土地の特徴や人々の暮らしに合った家は、どのような家が良いのか考えさせる。 ・身の回りの家の工夫についても考えさせる。 ・本や図鑑を用意し、いつでも調べることができるようにする。 ◎【知-①, 思-①③】(発言, ノート)
四 次 ①	○単元の学習を振り返る。 ○自分たちが考えた家を見合い、交流する。	○自分が考えた数え方を書いたカードをグループで見合う。また、3年生にも紹介する。	(4年)
			<ul style="list-style-type: none"> ・ものの種類ごとにグループを作り、新しい数え方を考えさせる。 ・自分が考えたいものの数え方をカードに書かせる。 ◎【知-①, 思-①③】(発言, ノート)
			(3年)
			<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた家の特徴をまとめ、どうしてこのような家にしたのかを、土地の特徴や人々の暮らしに関連付けてまとめさせる。 ◎【知-①, 思-②③】(発言, ノート)
			(4年)
			<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめと終わりで、どのようなことが分かったのかノートにまとめさせる。 ・自分が考えた数え方カードを、みんなに見せながら紹介させる。 ◎【知-①, 思-②③】(発言, カード, ノート)

3. 複式学級としての配慮

一～三次までは、「わたり」を行う学習になる。単元の始まりでは、これまで学習した説明文の読み取り方を全体で確認し、学習をスタートしてもよいと考える。

説明文の学習の仕方として、下記のようなものを掲示することが考えられる。

【説明文の学習の3つの準備】

① まずはすらすら読めるようにする。

読めない字、意味の分からない言葉は…国語辞典→友だち→先生

② だん落番号をふる。

1字下がった所に○

○の数を友だちとかくにん

○の中に番号を書く

③ 三つに分ける。

はじめ…どんな話か しょうかいや大きな問い

中…くわしい説明（例や理由）

おわり…まとめ（大きな問いの答え）

3年は、教材文にある三つの家の紹介をパターン化して学習する。まずは、家の特徴についてワークシートで作業しながら読み取り、そして「どうしてこのような家に住んでいるのか」と問いを提示することで、土地の特徴や人々のくらしと関連付けて読み取るよう促すことができる。このように、学習の進め方をパターン化して学習することで、自分たちで学習を進めることができる。

4年は、できるだけ学習リーダーを中心に学習が進められるようにする。3年の学習の進め方と同様、読み取りの学習の場面では、パターン化して行うことで、スムーズに自分たちで学習を進めることができる。

できるだけ視覚的にイメージが持てるように、掲示物（絵や写真、教材文）などを黒板に貼り、それらを手がかりに学習を進めることができるようにする。

4. 授業の実際（第1時，第4時）

（第1時）

3年の目標 「人をつつむ形—世界の家めぐり」を読んで，学習することをつかむことができる。

4年の目標 「数え方を生みだそう」を読んで，学習することをつかむことができる。

展開 □：直接指導 ■：間接指導

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○3年の学習活動		○4年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
	<p><u>1. 課題をつかむ</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「人をつつむ形—世界の家めぐり」を読んで，学習することをつかもう。</p> </div>		<p>○分からない語句に線を引きながら，文章を読む。</p> <p><u>1. 課題をつかむ</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「数え方を生みだそう」を読んで，学習することをつかもう。</p> </div>	<p>※文章を読ませると同時に，段落番号をふらせる。</p>
<p>※「題名を読んで，どんな家が紹介されていると思いますか」と問いかけることで，文章の内容に興味を持たせる。</p> <p>※この文章は，家の工夫について書いているということをお伝え，自分たちの住んでいる家にはどのような工夫があるのか考えさせる。</p> <p>※段落番号を確認させる。</p>	<p><u>2. 課題に取り組む</u></p> <p>○どんな家が紹介されているか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本以外の世界の家 ・変わった家 ・おもしろい家 <p>○家の工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋根があって，雨から守られる。 ・窓があって，空気の入れ換えができる。 <p>○分からない語句に線を引きながら，文章を読む。</p>		<p><u>2. 課題に取り組む</u></p> <p>○どんな数え方の例があったか読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジン ・えん筆 ・馬 <p>○バナナの数え方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄色だから，「○黄色」。 ・さるが好きな食べ物だから，「○さる」。 ・皮をふんだらすべから，「○すべり」。 	<p>※「どんなものか数え方が出ていましたか」と問いかける，事例を確認させ，いろいろなものか数え方について学習することを確認させる。</p> <p>※バナナの数え方は○本であるが，他の特徴を見つけるとどんな数え方があるか考えさせる。</p> <p>※単元のゴールでは，バナナの数え方のように，いろいろなものか数え方を考えるということをお伝え，学習の見通しを持たせる。</p> <p>※今日の学習で分かったこと，これからの学習で楽しみなことをノートに書かせる。</p>
<p>※今日の学習で分かったこと，これからの学習で楽しみなことをノートに書かせる。</p> <p>◎【知-②，思-②】 これまでの学習経験を生かして，学習課題を明確にし，学習の見通しを持って，進んで文章を読んで感じたことや考えたことをお伝え，共有しようとしている。（発言・ノート）</p>	<p><u>3. 振り返る</u></p> <p>○これからどんな学習をするのかを知り，ノートにまとめる。</p>		<p><u>3. 振り返る</u></p> <p>○これからどんな学習をするのかを知り，ノートにまとめる。</p>	<p>◎【知-②，思-②】 これまでの学習経験を生かして，学習課題を明確にし，学習の見通しを持って，積極的に文章を読んで感想や考えをお伝えしようとしている。（発言・ノート）</p>

(第4時)

3年の目標 チュニジアの家の特徴と、人々のくらしや土地の特徴との関係についてまとめることができる。

4年の目標 筆者のアメリカでの経験の事例から、日本の数え方とアメリカの子どもたちが考えた数え方の違いに気付くことができる。

展開 □：直接指導 ■：間接指導

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○3年の学習活動		○4年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
<p>筆者の観点にそって、チュニジアの家を整理しよう。</p> <p>※一人読みの後、ペアで一文ごとに交代読みを行わせる。</p> <p>※板書には、チュニジアの家の写真や絵を掲示する。 ※穴埋めで、家の特徴についてまとめさせる。</p> <p>【チュニジアの家の特徴】</p> <p>① 地面にたくさんの(あな) ② あなのそこは(中庭)と(野菜畑) ③ 中庭から横にほった(あなが部屋) ④ (羊)やヤギの部屋もある ⑤ (いど)は外にある ⑥ あなの中を(しっくい)で白くぬる</p> <p>※「人々はなぜこのような家に住んでいるのでしょうか」と問いかけることで、人々のくらしや土地の特徴について、絵や文章から読み取らせる。</p> <p>【土地の特徴や人々のくらし】</p> <p>① 夏は気温が高く、冬は気温が低い 雨が少なく、水はけの良い土地 ② 水を水がめにためておく 野菜などを育てるため ③ 地面の下は一年中二十度から二十八度で過ごしやすい ④ 食料などを手に入れるため ⑤ せんとくするため ⑥ 部屋を明るくするため</p>	<p><u>1. 課題をつかむ</u></p> <p>○⑨～⑪段落を音読する。</p> <p><u>2. 課題に取り組む</u></p> <p>○チュニジアの家の特徴をまとめる。</p> <p>○土地の特徴や人々のくらしをまとめる。</p>		<p>○③～⑦段落を音読する。</p> <p><u>1. 課題をつかむ</u></p> <p>③～⑦を読んで、日本とアメリカの数え方についてまとめよう。</p> <p><u>2. 課題に取り組む</u></p> <p>○アメリカと日本でのニンジンの数え方の違いについてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの子どもたちが考えた数え方は、日本の数え方と違うよ。 ・アメリカでは数え方がたくさん挙げたけど、日本は1種類だけ。 ・日本は細長いものは、「本」って数えたくなるんだ。 <p><u>3. 振り返る</u></p> <p>○日本の数え方とアメリカの子どもたちが挙げた数え方についてまとめる。</p>	<p>※「日本の数え方とアメリカの数え方は違うのでしょうか」と問いかけることで、数え方の違いを意識して読み取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの子どもたちは、ニンジン成形の特徴だけでなく、他の特徴や好きか嫌いかということを考えて、自分たちで数え方を生み出している。 ・日本は、形だけに注目して、ニンジン「本」と数えている。 <p>※日本の数え方はものを見方をせばめてしまうこともあるという筆者の考えた数え方についてまとめる。</p> <p>◎【知-①, 思-①】 筆者のアメリカでの経験の事例を読んで、日本の数え方の特色に気づき、まとめている。(発言、ノート)</p>

<p>※文章や絵から読み取ることができないこともあるので、いつでも図鑑などを読むことができるようにしておく。</p> <p>◎【知-①, 思-①】 家の特徴と、人々の暮らしや土地の特徴との関係について読み取り, 理解している。(発言, ノート)</p>	<p><u>3. 振り返る</u></p> <p>○チュニジアの家の良さについてまとめる。</p>				
--	---	--	--	--	--

5. 板書計画

(第1時)

(1) 3年生の板書

<p>1/○ 人をつつむ形―世界の家めぐり 「人をつつむ形―世界の家めぐり」を読んで、学習することをつかもう。</p>	<p>どんな家</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日本いがいの世界の家・ かわった家・ おもしろい家 <p>家のくふう</p> <ul style="list-style-type: none">・ 屋根があつて雨から守られている。・ まどがあつて空気の入れかえができる。・ マンションで、エレベーターがある。・ 和室がある。 <p>← 屋根の形が三角。</p> <p>雨の水がたまるから。</p>	<p>○自分の住んでいる土地のとくちや人びとのくらしに合った家を考えよう。</p>
---	---	---

(2) 4年生の板書

<p>1/○ 数え方を生みだそう 「数え方を生みだそう」を読んで、学習することをつかもう。</p>	<p>ニンジン えん筆 馬 家 マンション</p> <p>バナナの写真</p> <p>バナナの数え方を考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none">・ 黄色↓○黄色・ さるが好きな食べ物↓○さる・ 皮をふんだらすべるから↓○すべり・ 皮をむかないといけないから↓○皮・ 少し曲がった形をしているから↓○曲がり	<p>○いろいろなものの「新しい数え方」を考えてみよう。</p>
---	--	----------------------------------

(第4時)

(1) 3年生の板書

1 / □
人をつつむ形―世界の家めぐり

チュニジアの家について、書いてあることを整理しよう。

チュニジアの家のとくちよう

①地面にたくさんの()

②あなのそこは()と()

③中庭から横にほった()

④()とヤギの部屋もある

⑤()は外にある

⑥あなの中を()で白くぬる

なぜこんな家に住んでいるのか

- ①夏は気温が高く、冬は気温がひくい。
- ②水を水がめにためておく。
- ③地面の下は一年中二十度から二十八度ですごくしやすい。
- ④食料などを手に入れるため。
- ⑤せんたくをするため。
- ⑥部屋を明るくするため。

教科書 p.95 チュニジアの家の絵図

教科書 p.94 チュニジアの家の写真

(2) 4年生の板書

1 / □
数え方を生みだそう

③⑦を読んで、日本とアメリカの数え方についてまとめよう。

アメリカと日本の数え方


- ・アメリカの子どもたちの数え方は、日本とちがう。
- ・いろいろな数え方を考えている。
- （一ガリ，一オレンジ，一好き・・・）
- ・日本の数え方は一種類。
- ・日本は細長いものは、「本」で数える。

アメリカ

形のとくちようだけでなく、ほかのとくちようや、好きかきらいかということを考えて、自分たちで数え方を生み出している。

日本

物の形に注目して、ニンジンを細長いものを数える「本」と数えている。



ものを見方をせばめてしまうかもしれない。

国語教室開き

5年 この言葉，あなたどう考える／事実と考えを区別しよう

6年 気持ちよく対話を続けよう／原因と結果に着目しよう

国語学習のスタートとして，わたりを行わず，5…6年生がいっしょに学習をする。対話の仕方，事実と考え，原因と結果について学習し，高学年の国語教室開きを行う。

1. 単元の目標と評価規準

【目標】

目的や意図に応じて互いの考えを伝え合って対話したり，事実と考え，原因と結果との関係を明確にして書いたりすることができる。

【言語活動】

- ・互いの考えを伝え合う。A(2)ウ
- ・事実と考え，原因と結果の関係を考えて文章を書く。B(2)ア

【評価規準】

- [知・技] ①言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(1)ア
 ②情報と情報との関係付けの仕方を理解し使っている。(2)イ
- [思判表] ①「話すこと・聞くこと」において，互いの立場や意図を明確にしながらか話し合い，考えを広げたりまとめたりしている。A(1)オ
 ②「書くこと」において，目的や意図に応じて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。B(1)エ
- [主] ①課題を明確にして学習の見通しを持ち，互いの考えを明確にしながらか，進んで対話したり短文作りをしたりしようとしている。

2. 単元の学習の流れ（4時間扱い 話す聞く・書く）（○内の数字は配当時数）

次	5年の学習活動	6年の学習活動	指導の工夫・支援（・）と評価（◎）
一 次 ②	○5年「この言葉、あなたならどう考える」の教科書の対話例を読み、話の内容が明確になるように、互いに考えを伝え合うための対話の仕方を学習する。 ○会話が上手いかなかった場合の原因を6年の「気持ちよく対話を続けよう」を使って学習する。		（5年） ・話し合いで話を続けることができた経験を想起させる。 ・教科書の例より、話し合いを続けるための工夫がある意見を選ばせる。 ◎【知-①, 思-①, 主-①】（発言）
			（6年） ・5年の指導の工夫・支援と同じ。 ・話し合いの練習で、話し手の意見を正しくとらえている反応をしている姿を評価し、5年にもよい例として紹介する。 ◎【知-①, 思-①, 主-①】（発言）
二 次 ②	○5年の「事実と考えを区別しよう」の教科書p.12のグラフから分かる事実と考えたことを書く。気付いたことを話し合う。それから、教科書p.13のグラフから分かる事実と考えたことを文章で表に整理し、学習したことをまとめる。 ○6年「原因と結果に着目しよう」を使い、原因と結果の関係が分かるように文を書くという学習課題を確かめる。そして、三つの文章を読んで、気付いたことを伝え合う。そのうえで、体験や知識を基にして、原因と結果の関係が分かるような文章を書き、学習したことをまとめる。		（5年） ・5年の「事実と考えを区別しよう」を学習する際、教科書p.12の「事実」「考え」の文末表現に着目させて区別できるようにする。また、円グラフを見るときは、最も多い部分（中国）を必ず取り上げることを伝える。 ・6年の「原因と結果に着目しよう」を学習する際、①②③を比較させ、同じところ、違うところに色を変えた線を引いて、区別できるようにさせる。 ◎【知-②, 思-②, 主-①】（ノート）
			（6年） ・5年の指導の工夫・支援と同じ。 ・5年より文章を多く書く姿を評価する。 ◎【知-②, 思-②, 主-①】（ノート）

3. 複式学級としての配慮

5・6年いっしょに国語教室開きを行う。教科書は、互いのものを使用するために、5・6年生でペアやグループで学習する。単式学級と同じ形式で授業を行うが、児童の発達の違いを考慮し、5年と6年では評価の観点を変えるようにする。

4. 授業の実際（第1時，第4時）

（第1時） この言葉，あなたどう考える

全体の目標 話の内容が明確になるように，互いに考えを伝え合うことができる。

5年の目標 話の内容が明確になるように，互いに考えを伝え合う方法を見つけることができる。

6年の目標 話の内容が明確になるように，互いに考えを伝え合う方法を知り，使うことができる。

展開

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○5年の学習活動		○6年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
<p>※これまでに話が続いたという経験はないかを尋ねる。</p> <p>※右図のように発言に記号を付けさせる。 ※話が続くための工夫が書かれているところ線を引くように助言する。 ※話が続くための方法について見つけたことを認め，全体に広げるようにする。 ※話す組，聞く組を作る。</p> <p>◎【知-①，思-①，主-①】 互いの立場や意図を明確にしながら話し合い，考えを広げたりまとめたりしている。（発言）</p> <p>※今日分かったことを書かせる。</p>	<p>1. 課題をつかむ ○話し合いで話が続いた経験を出す。</p> <p style="text-align: center;">話が続くための対話の仕方を知ろう。</p> <p>2. 課題に取り組む ○教科書p.10の対話の例を読む。 ○例文を読み，話が続く方法を見つける。 ・質問する。 …イ，エ，キ ・理由を話している。 …オ ・相手の意見を解釈したり，認めたりする。 …カ，ケ ・さらに詳しく尋ねようとしている。 …ク ○心に残った言葉を紹介し，考えたことを伝え合う。 ○対話をして気付いたことを出し合う。</p> <p>3. 振り返る ○どのような点に気を付けて考えを伝え合ったかを振り返る。</p>		<p>(学習活動，指導上の留意点は5年に同じ)</p> <p style="text-align: center;">ケ . . . エ ウ イ ア</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 15%;"> . . . なるほど。「ばく発」という言葉から思. . . </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 15%;"> . . . </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 15%;"> どうしてそう考えたの。 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 15%;"> わたしは、「芸術は、ひらめきがかんじん. . . </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 15%;"> 初めて聞いたよ。短いけど印象的な言葉だ. . . </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 15%;"> 木村さんは、「芸術は、ばく発だ。」って. . . </div> </div> <p>◎【知-①，思-①，主-①】 話の内容を捉え，互いの立場や意図を明確にしながら話し合い，考えを広げたりまとめたりしている。（発言）</p> <p>※今日分かったこと，これから取り入れようとしたことを書かせる。</p>	

(第4時) 原因と結果に着目しよう

5年の目標 原因と結果の関係を把握して、目的に応じて書くことができる。

6年の目標 原因と結果の関係を把握して、目的に応じて複数の文章を書くことができる。

展開

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○5年の学習活動		○6年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
※これまでに上手くできたことを話させる。	<u>1. 課題をつかむ</u> ○成功体験の話を出す。 ・掃除で褒められた。 ・よい成績だった。		(学習活動, 指導上の留意点は5年に同じ)	
	出来事を相手に分かるように伝えるためのくふうを知ろう。			
※①と②のどちらが、学校に遅れたことを先生や友達に説明するのによいかを尋ねる。 ※②と③のどちらも原因と結果が分かる言い方だが、違いを尋ねる。 ※②と③両方の書き方で書くように伝える。 ◎【知-②, 思-②, 主-①】原因と結果の関係が分かるように工夫して文章を書いている。(ノート)	<u>2. 課題に取り組む</u> ○教科書p.12の①②を読み, 違いを見つける。 ・原因が分かるのは②だ。 ○教科書p.12の②③を読み, 違いを見つける。 ・②は原因が先で, ③は結果を先に言っている。 ○右の絵を2文で書く。 ○体験や知識を基にして, 原因と結果の関係が分かるような文章を書き, 読み合う。原因と結果が分かるように書いていることを評価する。			◎【知-②, 思-②, 主-①】原因と結果の関係が分かるような文章を、原因と結果の順や接続語をかえて複数書いている。(ノート) ※「だから」, 「なぜなら」以外の言葉を使って, 原因と結果が分かる文を書こうとしていることを評価し, 全体に知らせる。 ※今日分かったこと, これから取り入れようとしたことを書かせる。
※今日分かったことを書かせる。	<u>3. 振り返る</u> ○どのような点に気を付けて考えを伝え合ったかを振り返る。			

5. 板書計画 (第1時, 第4時)

(第1時 この言葉, あなたならどうする)

4 / ○

話が続くための対話の仕方を知ろう。

ケ ク キ カ オ エ ウ イ ア

教科書 p. 10-11 対話例

話が続くためにくふうをしているものは

イ エ 「どういう意味かな」 質問する。

キ ク 「くわしく教えて」 さらに質問する。

カ オ 「国語辞典で…」 理由を話している。

ケ ケ 「…意味を考えたんだね」「なるほど」
相手の意見を言いかえたり, みとめたりする。

○相手の話を聞くことがだいじ。

- ・ 質問する。
- ・ 理由をつけて話す。
- ・ 相手の意見を言いかえたり, みとめたりする。

(第4時 原因と結果に着目しよう)

4 / □

出来事を相手に分かるように伝えるためのくふうを知ろう。

学校におくれたことを伝えるのによいのは

① いつもより十五分おそく起きた。そして、学校に着くのがおくれた。

② いつもより十五分おそく起きた。だから、学校に着くのがおくれた。

原因が分かるのは…②

では原因をどのように伝えればよいのかな？

② いつもより十五分おそく起きた。だから、学校に着くのがおくれた。

③ 学校に着くのがおくれた。なぜなら、いつもより十五分おそく起きたからだ。

② 原因 ↓ 結果 ③ 結果 ↓ 原因

先に書いた方が強調される効果がある。

伝えたい方を先に書く。

○出来事を相手に分かるように伝えるための工夫

- ・ 原因と結果を書く。
- ・ 原因と結果のうち、伝えた方がよい方を先に書く

説明文を読み、要旨や筆者の主張をまとめよう

5年 筆者の伝えたいことをまとめよう

「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」

6年 筆者の論の進め方を確かめよう

「イースター島にはなぜ森林がないのか」

5年は「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」を読み、文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、まとめることを、6年は「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読み、文章の構成や事例を捉え、筆者の論の進め方についての考えをまとめることをねらいとして学習する。

1. 単元の目標と評価規準

〔5年〕

【目標】

文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、まとめることができる。

【言語活動】

- ・文章を読んで分かったことをまとめる。C(2)ア

【評価規準】

〔知技〕

- ①文章の構成や展開について理解している。(1)カ

〔思判表〕

- ①「読むこと」において、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。C(1)ア
- ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。C(1)オ
- ③「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。B(1)ア

〔主〕

- ①これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、まとめようとしている。

〔6年〕

【目標】

文章の構成や事例を捉え、筆者の論の進め方についての考えをまとめることができる。

【言語活動】

- ・筆者の論の進め方について考えたことを話し合ったり文章にまとめたりする。C(2)ア

【評価規準】

〔知技〕

- ①文章の中から原因と結果の関係を見出し、結び付けて捉えている。(2)ア

〔思判表〕

- ①「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。C(1)ア
- ②「読むこと」において、筆者の論の進め方について考えている。C(1)ウ
- ③「書くこと」において、考えと理由や事例などのつながりや配列を意識して文章の筋道を整えている。B(1)ア

〔主〕

- ①既習事項を振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って粘り強く筆者の論の進め方について考えて、話し合ったり文章にまとめたりしようとしている。

2. 単元の学習の流れ（7時間扱い 読む）（○内の数字は配當時数）

次	5年の学習活動	6年の学習活動	指導の工夫・支援（・）と評価（◎）
一次 ①	○これまでに学習したことを振り返って、文章の構成を捉えて要旨をまとめるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。	○これまでの学習を振り返って、筆者の論の進め方について考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。	<p>（5年）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全文を音読させて、意味の分からない言葉や読むことができない漢字がないかを把握し、辞書を引かせたり、読み仮名を付けさせたりする。 段落番号を振らせて、共通確認させる。 どのような内容の話かを確認させる。 教科書p. 40, 42, 43「言葉の力」を参考にさせる。 <p>◎【主-①】（発言、ノート）</p>
			<p>（6年）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全文を音読させて、意味の分からない言葉や読むことができない漢字がないかを把握し、辞書を引かせたり、読み仮名を付けさせたりする。 段落番号を振らせて、共通確認させる。 どのような内容の話かを確認させる。 教科書P. 43, 45「言葉の力」を参考にさせる。 <p>◎【主-①】（発言、ノート）</p>
二次 ③	○文章に書かれている内容を、叙述を基に押さえる。文章の構成を考えながら読み、読み取ったことを整理する。	○文章に書かれている内容を読み、文章の構成と要旨を押さえ、筆者の主張を捉える。イースター島から森林が失われた過程とその原因を読み取りながら、筆者の論の進め方について考える。	<p>（5年）</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じて、序論・本論・結論の一部を知らせるようにする。 結論の文型を示して、筆者の主張をまとめることができるようにする。 9段落を使って要旨を書かせていく。 <p>◎【知-①, 思-①】（発言、ノート）</p>
			<p>（6年）</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じて、序論・本論・結論の一部を知らせるようにする。特に結論を捉える場合、本論のまとめと筆者の伝えたいことの二重になっていることに気づかせる。 結論の文型を示して、筆者の主張をまとめることができるようにする。 25～27段落を使って要旨をまとめさせる。 <p>◎【知-①, 思-①②】（発言、ノート）</p>

三 次 ②	○まとめた要旨を読み合う。まとめた要旨を基に、考えたことを伝え合う。	○筆者の論の進め方に対する自分の考えを話し合い、文章にまとめる。	(5年) ・要旨を述べるために本論でどのようなことを述べたのか、教科書P. 41の図を使って整理させる。 ◎【知-①, 思-②③】(発言, ノート)
			(6年) ・要旨を述べるために本論でどのようなことを述べたのか、教科書P. 44の図を使って整理させる。 ◎【知-①, 思-②③】(発言, ノート)
四 次 ①	○文章の要旨をまとめるためにどのような点に注目したかを振り返り、身に付けた「言葉の力」がどんな場面に役立つかを考え、これからの学習や生活に生かそうという意識を高める。	○筆者の論の進め方について、どのような点が工夫されていたかを振り返り、身に付けた「言葉の力」を確かめて、これからの学習に生かしていこうという意識を高める。	(5年) ・単元の始めと終わりとを比較して、どのようなことが分かったかを書かせる。 ・各時間のノートのまとめをもう一度読ませて、新しく知ったことを書くように伝える。 ◎【知-①, 思-①, 主-①】(発言, ノート)
			(6年) ・単元の始めと終わりとを比較して、どのようなことが分かったかを書かせる。 ・各時間のノートのまとめをもう一度読ませて、新しく知ったことを書くように伝える。 ◎【知-①, 思-②, 主-①】(発言, ノート)

3. 複式学級としての配慮

5年「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」は、10段落からなる説明的文章である。

序論 1・2段落

本論 本論1：3・4段落 ペンギンとアザラシの泳ぐ速さ

本論2：5・6・7段落 動物たちの泳ぐ速さ

本論3：8段落 動物が潜水をする理由

結論 9・10段落

と、この説明文の構成を三つに整理する。このとき手がかりになるのは、2段落の「動物たちが海の中で何を見て、どんなことを考えて日々くらしているのだろうか」という本文全体を貫く問いと、3～7段落で述べられている実験・観察の内容である。5年になって最初の説明文であるので、教科書p.41の「文章の構成を整理した例」を参考にさせることや、「2段落の全体を貫く問い」を全体で確認させるなどの手立ても必要だと考える。そして、9段落の3、4文目を使って、要旨をまとめるという手順を示すことも必要であろう。専門用語が多いので、言葉の意味を確認しながら読むことや、添付されている図表を参考にさせることも、内容を読む手がかりになると考える。序論・本論・結論の構成図や9段落の3、4文目を虫食いにしたワークシートを用意して自分たちで学習を進めていくことなどの配慮をしていく。

一方、6年の「イースター島にはなぜ森林がないのか」は、27段落からなる長文である。文章の構成や事例を捉え、筆者の論の進め方についての考えをまとめることをねらいとして学習する。まず、筆者の論の進め方について考えるという学習課題を知り、「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読み、教科書p.44の手引きを参考に構成と要旨を押さえる。

構成は、

序論：1・2段落

問い…イースター島の森林は、なぜ、どのようにして失われてしまったのだろうか。

本論：3～20段落

本論① 3～7段落 イースター島に森林があったころの様子

本論② 8～20段落 森林が失われた原因

8段落 森林が失われた原因1 人間の伐採

9・10段落 農地にするため

11・12段落 丸木船を作るため

13～17段落 モアイ像を運ぶため

18～20段落 森林が失われた原因2 人間が持ち込んだラットの繁殖

結論：21～27段落

21～24段落 イースター島に森林がない理由

25～27段落 現代の人々へのメッセージ

となっている。このように「イースター島にはなぜ森林がないのか」は、本論の構成が何層かに分かれ、結論も二つの部分にまとめるという構造を持っている。イースター島から森林が失われた過程と原因とを、構造を手がかりとしながら読み取り、筆者の論の進め方に対する自分の考えを話し合い、文章にまとめるようにする。序論・本論・結論の枠組みを授業者から示すことや、要旨の一部を示すワークシートの準備などの配慮をすることも、児童の実態に応じて行っていく。

4. 授業の実際（第2・3時）

全体の目標 序論・本論・結論の三つに分け、全体の構成をとらえることができる。

5年の目標 序論・本論・結論の三つに分けることができる。

三つに分けたことを元に、結論を使って要旨をまとめることができる。

6年の目標 序論・本論・結論の三つに分け、さらに本論を二つに分けることができる。

三つに分けたことを元に、結論を使って要旨をまとめることができる。

展開 □：直接指導 ■：間接指導

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○5年の学習活動		○6年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
	文章全体を序論・本論・結論の三つに分けよう			
※全体を貫く問いが含まれているのが序論であると伝え、問いの文をノートに視写させる。	1. 課題をつかむ ○2段落の問いの文を見つける。 「動物たちが海の中で何を見て、どんなことを考えて日々くらししているのだろうか。」		1. 課題をつかむ 序論：①② 本論：③～○ 結論：○～㉗	※左のように、序論・本論・結論のまとまりを見せる。 ※②段落の大きな問いを確認させ、1, 2段落が序論だと知らせる。
※3～10段落で、動物の名前が出てくる段落を見つけさせる。 ※「3～7段落で共通して出てくる言葉は」と尋ねる。	2. 課題に取り組む ○本論を三つに分ける。 ○3～7段落で、動物の名前と、共通して出てくる「泳ぐ速さと体の大きさ」を使って、それぞれの段落に名前を付ける。		2. 課題に取り組む ○結論の手がかりとなる21段落「このようにして(まとめのつなぎ言葉)」に着目する。	※3～7段落は森林が失われる前の説明であることを確認する。 ※21段落から森林がなくなった原因が伐採とラットの二つであることを確認する。
※動物名+泳ぐ速さと体の大きさ、という段落のまとまりの見出しを付けることを助言する。	本論1 3・4段落 ペンギン、アザラシの泳ぐ速さと体の大きさ 本論2 5・6・7段落 マッコウクジラ、シロナガスクジラの泳ぐ速さと体の大きさ		21：このようにして、…ヤシ類の森林は、 <u>ばっさい</u> という人間による直接の森林破かいと、人間が持ちこんだ… <u>ラット</u> がもたらした…によって、…、ほぼ完ぺきに破かいされてしまったのである。	
	本論3 8段落 3・4, 5・6・7のまとめ		○8～20段落を五つに分ける。 8：森林が失われた原因1 人間の伐採 9・10：農地にするため 11・12：丸木船を作るため 13～17：モアイ像を運ぶため 18～20： 森林が失われた原因2 人間が持ち込んだラットの繁殖	※ラッコが出てくる段落を確認させる。
			○結論を二つに分ける。 ○筆者の結論は？ 子孫に思いをめぐらす？	※「21～27段落で、島の説明ではなくなった段落は」と尋ねる。

<p>※10段落は筆者の投げかけ、今後の予想が書かれており、伝えたいことは、9段落にあることを伝える。</p> <p>◎【知-①, 思-①】 序論・本論・結論のまとまりを捉え、構成から筆者の伝えたいことの内容をつかんでいる。(発言・ノート)</p>	<p>○9～10段落が結論であることをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の中で楽に移動する。 ・深く長くもぐる能力を身につけ、泳ぎ続けられる速さを選ぶ。 <p>3. 振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日学習したことをノートにまとめる。 		<p>・現代の人々へのメッセージ</p> <p>3. 振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日学習したことをノートにまとめる。 	<p>※「筆者が伝えなかったことは、森林がなくなった原因か、現代の人々へのメッセージか」と問う。</p> <p>◎【知-①, 思-①】 序論・本論・結論のまとまりを捉え、結論を二つに分けて、構成から筆者の伝えたいことの内容をつかんでいる。(発言・ノート)</p>
<p>序論 1・2段落</p> <p>問い：動物たちは海の中で何を見て、どんなことを考えて日々くらしているのだろうか。</p> <p>本論 3～7段落</p> <p>本論1：3・4 ペンギンとアザラシの泳ぐ速さ</p> <p>本論2：5・6・7 クジラの泳ぐ速さ</p> <p>本論3：8 動物の泳ぐ速さと大きさ</p> <p>結論 9～10段落</p> <p>海の中で楽に移動することを考えている。</p> <p>深いところにいるえさをとるために、深く長くもぐる能力を身につけ、つかれることなく泳ぎ続けられるちょうどよい速さを選んでる。</p> <p>動物たちから学べることは、まだたくさん残っている。</p>				<p>序論：1・2段落</p> <p>問い…イースター島の森林は、なぜ、どのようにして失われてしまったのだろうか。</p> <p>本論：3～20段落</p> <p>本論1 3～7段落 イースター島に森林があったころの様子</p> <p>本論2 8～20段落 森林が失われた原因</p> <p>8段落 森林が失われた原因1 人の伐採</p> <p>9・10段落 農地にするため</p> <p>11・12段落 丸木船を作るため</p> <p>13～17段落 モアイ像を運ぶため</p> <p>18～20段落 森林が失われた原因2 人間が持ち込んだラットの繁殖</p> <p>結論：21～27段落</p> <p>21～24段落 イースター島に森林がない理由</p> <p>25～27段落 現代の人々へのメッセージ</p>

5. 板書計画 (第2・3時)

(1) 5年生の板書

5 / ○

動物たちが教えてくれる海の中の暮らし

文章全体を序論・本論・結論の三つに分けよう。

序論

1 動物たちが海の中で何を見て、どんなことを考えて日々くらしているのだろうか

2 全体をつらぬく問い

本論

☆出てくる動物の名前を書こう

3 キングペンギン ウェッデルアザラシ

4 ペンギン アザラシ

5 マッコウクジラ

6 マッコウクジラ・シロナガスクジラ

7 の泳ぐ速さと体の大きさ

8 ・海の中で楽に移動する

結論

9 ・深く長くもぐる能力を身につけ、泳ぎ続けられる速さを選ぶ

10

○序論は全体をつらぬく問いが書かれている。

○動物の名前が出てきているところが本論。

「動物たちが…」の本論は三つに分かれる。

(2) 6年生の板書

5 / ○

イースター島にはなぜ森林がないのか

文章全体を序論・本論・結論の三つに分けよう。

序論…1・2

本論…3～

結論…○～27

手がかり2 結論に入るときの言葉 「このように」 21段落

21…このようにして、…ヤシ類の森林は、ばっさいという人間による直接の森林破かいと、人間が持ちこんだ：ラットがもたらした…によって、…、ほぼ完ぺきに破かいされてしまったのである。

手がかり1

森林が失われた原因 ばっさい ラット

8 …森林が失われた原因1 人間の伐採

9・10 …農地にするため

11・12 …丸木船を作るため

13…モアイ像を運ぶため

18 17 20 …森林が失われた原因2 人間が持ち込んだラットのまんしよく

結論も二つに分ける

イースター島に森林がない理由

現代の人々へのメッセージ

○まとめの段落「このように」を手がかりに本論を分ける。

○「イースター島にはなぜ森林がないのか」で筆者が伝えたいことは二つある。

聞く名人になろう

2年 外国の小学校について聞こう

3年 メモを取りながら話を聞こう

2年の「外国の小学校について聞こう」と3年「メモを取りながら話を聞こう」を組み合わせた単元を構想する。

まず、2年の教科書p.50-51を読み、外国の小学校のことを聞くという活動の目的をつかませる。そして、2年生には、「自分が聞きたいことを落とさないように集中して話を聞くことができること」、3年生には「必要なことを記録しながら聞くこと」ができるようにという課題を示す。実際に聞く活動では、Dマークコンテンツの音声を利用する。2年生のカンボジアの小学校の様子を聞き、話を聞くときに気を付けたことや気付いたことを確かめる。聞いた後、2年生は、聞いたこととで、自分が知っていることとの共通点や相違点を整理するワークシートを書く。3年生は、Dマークコンテンツから「郵便局の仕事」を聞き、話し手が伝えたいこととの中心を捉えるために、話の組み立て方を意識していることをつかませる。特に最初の「…三つお話しします。一つ目は…」という言葉の使い方に着目できるようにする。そうして、単元の最後に「話を聞くときには」ということで学んだことを発表し合い、単元を終える。

1. 単元の目標と評価規準

〔2年〕

【目標】

自分が聞きたいことを落とさないように集中して話を聞き、聞いたことと自分が知っていることとの共通点や相違点に着目して、感想を持つことができる。

【言語活動】

・紹介を聞いて感想を述べる。A(2)ア

【評価規準】

〔知技〕 ①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア

〔思判表〕 ①「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。A(1)エ

〔主〕 ①これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、粘り強く話し手の話を集中して聞き、学習課題に沿って、外国の小学校の紹介を聞いて感想を述べようとしている。

〔3年〕

【目標】

話し手が伝えたいこととの中心を捉えるために、話の組み立て方を意識して、必要なことを記録しながら聞くことができる。

【言語活動】

・話を聞いて情報を集める。A(2)イ

【評価規準】

- [知技] ①指示する語句の役割について理解している。(1)カ
②必要な語句の書き留め方などを理解し、使っている。(2)イ
- [思判表] ①「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えている。A(1)エ
- [主] ①これまでに学習したことや人の話を聞いた経験を生かして学習課題を明確にし、工夫して、必要なことを記録しながら聞き、情報を集めようとしている。

2. 単元の学習の流れ（4時間扱い 話す聞く）（○内の数字は配当時数）

次	2年の学習活動	3年の学習活動	指導の工夫・支援（・）と評価（◎）
一 次 ①	○これまでの経験を振り返り、紹介を集中して聞き、感想を述べるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。		<p>（2年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年教科書p.50-51のイタリアの小学校の話を教師が読んだり、音声を活用したりして、外国の小学校のことを聞くという活動の目的をつかませる。そして、2年生には「自分が聞きたいことを落とさないように集中して話を聞くことができること」ができるようにという課題を示す。 <p>◎【主-①】（発言、ノート）</p>
			<p>（3年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年教科書p.50-51のイタリアの小学校の話を教師が読んだり、音声を活用したりして、外国の小学校のことを聞くという活動の目的をつかませる。そして、3年生には「必要なことを記録しながら聞くこと」ができるようにという課題を示す。 ・上手く記録するためには、「何を書くのか」が分かればよいと助言し、聞く名人になろうと投げかける。 <p>◎【主-①】（発言、ノート）</p>
二 次 ①	<p>○2年上p.148「カンボジアの小学校」の音声を聞く。</p> <p>○聞き終わった後、</p> <p>2年：感想を話し合う</p> <p>3年：話を聞くとときに気を付けたことや気付いたことを確かめるという分かれた活動を行う。</p>		<p>（2年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の小学校と同じところ、違うところを聞くことを伝えておく。 ・イタリアの学校の例で聞いた、「教科書」「始まる時間」「休み時間」「終わる時間」「ひるごはん」の項目を示し、この中で、どのことを聞きたいと考えているか決めさせておく。 <p>◎【知-①, 思-①】（行動観察）</p>
			<p>（3年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に聞いたイタリアの小学校の話を正確に聞き取ることができたかを尋ねて、正確に聞くためのメモの仕方はどうしたらよいかという問題意識をもたせる。 ・何を知っていれば、正確に聞き取ることができるかを問う。そして、イタリアの学校の例で聞いた、「教科書」「始まる時間」「休み時間」「終わる時間」「ひるごはん」の項目を示し、このことが分かっていたら聞き取ることができそうだという見通しをもたせる。 ・聞き終わった後、カンボジアの学校の文章とメモをしたことを照らし合わせて、正確に聞き取ることができたことを評価し合う。 <p>◎【知-①, 思-①】（行動観察）</p>

<p>三 次 ①</p>	<p>○前時に聞いて、思ったことについて話し合う。</p>	<p>○Dマークコンテンツの音声を利用して郵便局の仕事の話を、メモを取りながら聞き、どんな言葉を聞き取ろうとしたかを確認する。</p>	<p>(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に聞いたカンボジアの小学校の様子で、驚いたことやおもしろいと思ったことを尋ね、自分が通う小学校との共通点や相違点を出させる。 ・正確に聞き取ることができた理由について尋ねる。 <p>◎【知-①, 思-①】(発言, ノート)</p> <hr/> <p>(3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郵便局の仕事の話を、メモを取りながら聞き、教科書p.52のメモ2つのメモのうちどちらに近いのかを比べる。 ・下のようなメモを取るためには、どの言葉に気をつけて聞き取ろうとしたのかを話し合い、最初の「三つ」という言葉だったことを確認させる。 <p>◎【知-①②, 思-①】(発言, メモ)</p>
<p>四 次 ①</p>	<p>○聞きたいことを落とさずに聞くために気をつけたことを確認し、教科書p.53の「ことばの力」を視写して、単元の学習をまとめる。</p>	<p>○「聞いてみよう」教科書p.154を聞く練習として用いる。</p> <p>○教科書p.53の「言葉の力」を視写して、単元の学習をまとめる。</p>	<p>(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞きたいことを決めていないときに、聞き取ることができたかを尋ねる。 ・生活科のインタビューなどの経験を想起したり、今後行うインタビューの計画を立てたりするなかで、「聞きたいこと」をあらかじめ決めておくことを確認させる。 <p>◎【知-①, 主-①】(発言, ノート)</p> <hr/> <p>(3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取った後、これまでと今回のメモで工夫したところを尋ねる。 ・話し始めの「〇つ」という言葉を聞き取り、ナンバーリングをした姿を評価する。 <p>◎【知-①②, 主-①】(発言, メモ, ノート)</p>

3. 複式学級としての配慮

話す・聞く学習は、異学年で異なる学習材を用いると、片方の学習の注意を損なう恐れがあるのでできるだけ避けるべきだと考える。本単元では、最初に2年生の教科書の「イタリアの小学校」の例を2・3年共通の学習材として用いることでその問題を解消しようとした。

ただ、同じ学習材を用いるからといって、「わたり」を完全になくすわけではない。本単元の第2時は、どちらも「イタリアの小学校」の話を聞くのだが、2年生は、自分たちの学校と同じ、違うところを聞くという目的で行い、3年生は、正確に聞き取ることが目的で行う。そうすると、目的が異なるのであるから、当然、「わたり」を用いて、学習が成立するようにしなければならない。

また、第2時では、2年生において聞き取ったことを書くワークシートの準備を、3年生ではカンボジアの小学校の様子を伝えた文のプリントの準備が必要となる。複式学級において、「わたり」を活用し、一部ではあるが、直接・間接指導を取り入れた授業構成を行うならば、そういった教具の準備が必要になる。

4. 授業の実際（第2時）

2年の目標 カンボジアの小学校についての話を聞き、自分が通う小学校との共通点や相違点に着目して感想を持つことができる。

3年の目標 カンボジアの小学校についての話を聞き、正確に聞き取ることができる話の聞き方やメモの取り方について考えることができる。

展開 □：直接指導 ■：間接指導

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○2年の学習活動		○3年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)
<p>※日本の小学校と同じところ、違うところを聞くこと、感想が持てるようにすることを助言する。</p> <p>※イタリアの小学校の話想起させる。2年の教科書p. 50-51を参考にさせる。</p>	<p>1. 課題をつかむ ○前の時間に聞いたイタリアの小学校の話から聞きたいことを決める。名前カードを貼る。</p>		<p>1. 課題をつかむ ○前の時間に聞いたイタリアの小学校の話から、注意して聞くことを考える。</p>	<p>※イタリアの小学校の話の思い出させる。2年の教科書p. 50-51を参考にさせる。</p>
<p>イタリアの学校の例で聞いた項目 「教科書」「始まる時間」「休み時間」「終わる時間」「ひるごはん」</p>				
<p>カンボジアの小学校の話を聞いて、感想を持とう。</p>		<p>カンボジアの小学校の話を聞いて、話の聞き方・メモの取り方を考えよう。</p>		
<p>※Dマークコンテンツの音声を利用したり、教師が読み聞かせたりする。</p> <p>◎【知-①, 思-①】 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、聞いたことの中で、自分の思っていたことと同じだったこと、違っていたことがあったという感想を持っている。（行動観察）</p> <p>※感想を持つことができたことを評価する。</p>	<p>2. 課題に取り組む ○カンボジアの小学校の話を聞く。</p> <p>○感想をワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の小学校と比べて…が同じだった。 ・…が違っていた。 ・…だったのでびっくりした。 <p>○ペアで感想を交流し、次時の全体での話し合いの準備をする。</p>		<p>2. 課題に取り組む ○カンボジアの小学校の話を聞く。</p> <p>○正しく聞き取ることができたか、本文を見て、自分の取ったメモを確認する。</p> <p>○正しくメモを取ることができたわけを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモをすることを決めていた。 ・何について話すかという言葉に注意していた。 	<p>※Dマークコンテンツを利用したり、教師が読み聞かせたりする。</p> <p>※カンボジアの小学校の話の本文のプリントを準備しておく。（配布、掲示する）</p> <p>◎【知-①, 思-①】 必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉えている。（行動観察）</p>
	<p>3. 振り返る ・今日学習したことをノートにまとめる。</p>		<p>3. 振り返る ・今日学習したことをまとめる。</p>	<p>※正しくメモできたことを評価し、次時で今日学んだことを活用することを伝える。</p>

言葉の知識を身につけよう

4年 文の組み立てと修飾語

5年 敬語の使い方

4年は、主語、述語、修飾語それぞれの働きを理解し、文の構成を捉えることをねらいとする。修飾語の役割を知り、主語、述語、修飾語からできている文の構成について理解し、主語、述語、修飾語からなる文の語と語の関係を理解して、文の構成を図示したり文を作ったりする。

5年は、敬語を理解することを中心とした学習を行う。まず、敬語の種類や使い方を理解する。そして、敬語に書き換える練習題に取り組んだり、敬語を使った会話文を作ったりして、敬語の使い方について理解を深める。

1. 単元の目標と評価規準

〔4年〕

【目標】

主語、述語、修飾語それぞれの働きを理解し、文の構成を捉えることができる。

【評価規準】

〔知技〕 ①言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。

(1)才

②主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係について理解している。(1)力

〔主〕 ①学習課題に沿って、積極的に主語、述語、修飾語それぞれの働きを理解し、文の構成を捉えようとしている。

〔5年〕

【目標】

敬語を理解し、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる。

【評価規準】

〔知技〕 ①日常よく使われる敬語を理解し使っている。(1)キ

〔主〕 ①学習課題に沿って、積極的に敬語を理解し、適切に使おうとしている。

2. 単元の学習の流れ（2時間扱い 言葉）（○内の数字は配当時数）

次	5年の学習活動	6年の学習活動	指導の工夫・支援（・）と評価（◎）
一 次 ①	○主語，述語，修飾語の働きを理解して文の構成を捉えるという学習課題を確かめる。 ○修飾語の役割を知り，主語，述語，修飾語からできている文の構成について理解する。	○敬語について知るといふ学習課題を確かめる。 ○敬語の種類や使い方を理解する。	（5年） ・単語をカードにしたものを準備して，カードを操作する活動ができるようにする。 ・修飾，被修飾の関係に興味を持つように，児童の考えた文を把握する。 ◎【知-②，主-①】（発言，ノート）
			（6年） ・敬語を使っている文と使っていない文を考えておく。 ・カードを操作する活動ができるようにする。 ・尊敬語，謙讓語，丁寧語をまとめるための資料を準備しておく。 ◎【知-①，主-①】（発言，ノート）
二 次 ①	○主語，述語，修飾語からなる文の語と語の関係を理解して，文の構成を図示したり文を作ったりする。主語，述語，修飾語それぞれの働きについて，学習したことを振り返る。	○敬語に書き換える練習題に取り組んだり，敬語を使った会話文を作ったりして，敬語の使い方について理解を深める。敬語の使い方について，学習したことを振り返る。	（5年） ・修飾，被修飾の関係が整理できるような単語カードを準備しておく。 ・児童が文を考えやすいように，授業者も文例を用意しておく。 ◎【知-①②，主-①】（発言，ノート）
			（6年） ・尊敬語，謙讓語，丁寧語を区別するための資料を準備しておく。 ◎【知-①，主-①】（発言，ノート）

3. 複式学級としての配慮

言語事項の学習は、教科書を読み取らせるといった授業形式ではなく、問題解決型の授業を行うことにより、学習する言葉の知識を得ることができることとともに、言葉そのものへの興味・関心を高めることができる場合がある。

そのため、いきなり教科書を開かせるのではなく、教師が用意した資料を示して問題場面を把握させることから授業を始める。そして、教科書は問題への答えを持ったこと確かめとして用いるようにする。そうすることで、自分たちで教科書を見て確かめるという間接指導の場を持つことができるようにする。

また、教具として言葉のカードを用いる。そうすることで、カードを黒板で移動させるという活動が生まれ、自分たちだけで学習する場を作りやすくなり、また、黒板でカードを操作する姿は、一方の学習に教師が関わっていても把握しやすくなる。

複式学級の授業においては、子どもたちでできる活動の場を設定することによって、教師がいなくてもできる学習の場を生み出すようにするのがコツである。

4. 授業の実際（第1時）

4年の目標 主語，述語，修飾語それぞれの働きを理解することができる。

5年の目標 敬語を理解し，尊敬語，謙譲語，丁寧語の三種があることを理解することができる。

展開 □：直接指導 ■：間接指導

※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)	○4年の学習活動		○5年の学習活動	※指導上の留意点 ◎ 評価(方法)									
※ 犬が ， 追いかける。 の2枚のカードを提示する。 ※文が，主語と述語できていることを伝える。	1. 課題をつかむ ○カードを並べかえて正しい文を作る。 ・ 犬が 追いかける。 犬が…主語 追いかける…述語		1. 課題をつかむ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 人に敬意を表したり，()に言ったりするときの言い方を敬語と言います。 </div>	※敬語の説明を虫食いで提示する。									
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 文の組み立てについて知ろう。 </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 敬語についてくわしくなろう。 </div>										
※ ボールを ， 元気に のカードを示し， 犬が と 追いかける。 の間に入れる。	2. 課題に取り組む ○ボールをのカードが主語と述語どちらを詳しくする言葉かを見つける。 ○カードの位置で表す。		2. 課題に取り組む ○18枚のカードを「敬語を使っている」と「使っていない」とに分ける。	※アエオキケサソチのカードをのける。 (スツは丁寧語を使っている。)									
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">犬が</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ボールを</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">追いかける。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">犬が</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">元気に</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ボールを</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">追いかける。</td> </tr> </table> </div>	犬が	ボールを	追いかける。	犬が	元気に	ボールを			追いかける。				
犬が	ボールを	追いかける。											
犬が	元気に	ボールを											
		追いかける。											
※修飾語…ほかの言葉をくわしく説明する働きをする言葉と示す。 ※児童から出ない場合は，「白い犬が，赤いボールを追いかける。」という文を示し，「今	○ 元気に ， ボールを のような言葉を修飾語とすることを知る。 ○教科書から，修飾語の意味の説明を見つけて，ノートに書く。 ○「犬が」をくわしくする言葉(修飾語)を考える。 ・白い ・大きな ・かわいい ○修飾語を付けた文を黒板に書き出す。 ①白い犬が，元気にボールを追いかける。 ②かわいい犬が，急いでボールを追いかける。 ③白い犬が，赤いボールを追いかける。		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ア あなたは、何を食べるの。 イ あなたは、何をめしあがりますか。 ウ 先生が、講堂でおもしろい話をされた。 エ 先生が、講堂でおもしろい話をした。 オ 教頭先生も、出席するんだ。 カ 教頭先生も、ご出席されるんだ。 キ おじさんが言うことは正しい。 ク おじさんがおっしゃることは正しい。 ケ 母が、言う。 コ 母が、申しあげる。 サ わたしが、代わりに行く。 シ わたしが、代わりに参ります。 ス わたしが後で、連絡します。 セ わたしが後で、ご連絡します。 ソ 田中さんを家によぶ。 タ 田中さんを家におまねきする。 チ 教室に花をかざる。 ツ 教室にお花をかざる。 </div>	※アエオキケサソチのカードをのける。 (スツは丁寧語を使っている。)									
			○尊敬語と謙譲語の違いを知る。 〈尊敬語〉相手をうやまい，高める言い方。 ・特別な言い方 ・言葉+れる・られる	※スは文末に「です」「ます」つける丁寧語，ツは「お」「ご」を使った丁寧語であることを伝える。 ※スツを除いた6枚を二つに分けようと投げかけ									

<p>までとちょっと違うよ」と投げかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に→追いかける ・赤い→ボールを <p>◎【知-②】 修飾と被修飾の関係について、短文を例にとらえ、理解している。(発言, ノート)</p>	<p>○③の赤いはボールををくわしくしていることを理解する。</p> <p><u>3. 振り返る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日学習したことをノートにまとめる 		<ul style="list-style-type: none"> ・「お」や「ご」をつける。 ・主語は…相手や目上の人。 <p>〈けんじょう語〉自分や身内を低めていう言い方。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な言い方 ・「お」や「ご」をつける。 ・主語は…自分や身内 <p><u>3. 振り返る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに学習したことをまとめ、改めてカードを分ける。 	<p>る。児童の様子によって、ヒントを出す。</p> <p>※主語(誰が)に着目している意見を取り上げる。</p> <p>◎【知-①】 日常よく使われる敬語について、尊敬語、謙譲語、丁寧語の種類、場面や相手に応じた使い方を理解している。(発言, ノート)</p>
--	---	--	--	---

